ヒロインを手に入れたいので
洗脳悪堕ちさせる事にしました♡
ページ総数
182P
おまけ有り

神子山 悠理(みこやま ゆうり)

前世では異世界の神子
勇者セイジ達と共に魔王を倒した
前世では男だったが現代日本で女性に転生している
前世での神子の力は今世でも持っているが
まだ覚醒しきれておらず本人もまだ気づいていないようだ
セイジ(誠二)と再会し再び恋人同士になるが…

今瀬 麻緒(いませ まお)

前世は異世界の魔王
現代日本に人間として転生し悠理と親友になった
前世の記憶はその時は持っていなかった
悠理に恋愛感情を持っており、ある日前世の記憶が蘇る
その日を境に魔王の力を取り戻していく

日色 誠二(ひいろ せいじ)

前世では異世界の勇者
神子ユーリ達と共に魔王を倒した
現代日本に転生しユーリ(悠理)と再会し
再び恋人同士になる
前世での勇者の力を今世でも持っているが
悠理と同様覚醒しきれていないようだ

セイジ&ユーリ

誠二と悠理の前世
2人は旅をしていく中で
恋人同士になったが
体の関係は持てなかった

ルッタ&アリア

前世の仲間
2人はユーリによって魔王の空間から
脱出する事ができた

早希

悠理と麻緒の親友で
麻緒とはクラスメイト
昼食はパンを食べる事が多い

前世(男)
転生(女)
プロローグ
『前世』

ぐぁみみみっ
ハアアアアッ
ハアッ
ハアッ

神子…
ザアア
今度こそ…
お前を私の物に…
ハアッ
ハアッ
ハアッ
ハアッ
ハアッ
ハアッ
やった…
やったぞ…

ドサッ
!!
バッ
セイジ!!
ユーリ…
ごめん…
残りの力を空間転移に
使うから今は君を回復
できない…
あぁ…
気にするな
早くここから脱出しないとな…
肩を貸してくれるか?
ゴゴゴゴッ
これは…っ!!
魔王を倒した事で
この空間が
崩壊を始めてる!?

ゴゴゴッ
!!
ユーリ!!
俺をおいて3人で脱出しろ!!
あいつらも限界であそこから
動けない…!!
な・何を言ってるんだ
君をおいていけるわけ
ないだろう…!!
ユーリ・・
このままじゃ
脱出は間に合わない!!
ゴゴゴゴッ
ごめんユーリ…
世界が平和になったら
一緒に暮らす約束守れそうにない…
・・っ
おい!!お前ら
何やってるんだ!?
早くみんなで
脱出をしないと…!!
ゴゴゴゴッ

ゴゴゴゴゴゴ
!!
ゴゴゴゴゴゴ
ユーリ!?
どうか平和になった世界で
幸せに暮らして下さい・・・・

セイラ!!
ユーリ!!
シュン

ゴゴゴゴッ…
何をしているんだ
ユーリ!!
セイジのいない世界なんて
嫌だった…
平和になった世界で
セイジがいないなんて
耐えられないよ…
ゴゴゴッ…
ユーリ…
最後まで
一緒にいさせてほしいんだ
最後の僕の我儘を
許して…
ゴゴゴゴ…
ユーリ…
ごめんな…俺のせいで…
心中をさせてしまう事になった…

うん…っ!!

第１話
『転生した私達は再会する』

まさか
転校先で
お前に会えるとは
思わなかったよ

うん…
私もこうやって
再会できるなんて
思わなかった…

まさか
ユーリが女の子に
生まれ変わってるなんて
思わなかったよ
だよね
自分でも
ビックリしたよ
私達は
お互いの話で
盛り上がった
誠二は
前世から
変わってなくて
安心したし
嬉しかった…
2人とも…
あの後無事に
元の世界に帰れたよね…？
お前の力なら
無事に帰れてるさ…
魔王を倒して
みんなで生きて帰ろうって
約束していたのに…
私…
酷い事したんじゃないかって
生まれ変わってから
ずっと思ってたんだ
それを言ったら
俺だって約束を破ってるだろ…？
お前だけのせいじゃない…

あいつらが…
魔王がいないあの世界で…
幸せに暮らしている事を願おう
俺たちにはそれしかできないんだ
うん…
そうだね…
ゆっくり!!
びくっ
あ

麻緒!!
も〜!!
悠理〜…
約束忘れてるでしょ!?
時間になっても玄関に来ないし
ニャインには気づかないし
屋上に行くの見たって聞いて
ここまで来たんだからね!!
えっ!?
もうそんな時間!?

うわっ!!
麻緒ごめん!!
ここから未読だニャ
玄関で待ってるよ
16:15
悠理？
16:30
不在着信
16:32
ハ〜マ〜〜…
全くもう
悠理ったら…

…で
悠理この人は誰？
悠理が
男子といるなんて
珍しい…

あっ紹介するね
この人は
日色誠二くん
今日私のクラスに転校してきたの
誠二、この子は
私の親友の今瀬麻緒
どうも…
ど、どうも…
初めまして…
ん？え？
名前呼び捨て？

あっ
えーとね…
知り合いなんだ…
前世で恋人同士だった…
なんて言えるわけないよね
確実にやばい奴だと思われる…
!!
そ…
そうなんだ～

じゃあ
また明日！
あぁ
また明日

私達はその後
約束していた喫茶店に寄って
今日の出来事で盛り上がった
ふぅ～…
ドサッ

まさか誠二と
再会できるなんて
思わなかったな…
同じ日本に
転生してたんだね誠二…
こうやって再会できたのは
運命…だったりするのかな
なんてね…!!
夢見すぎかな…!!
早く寝なきゃ

誠二と再会して
数週間後…

えっ？

悠理…
もしお前が前世と気持ちが
変わっていなかったら…

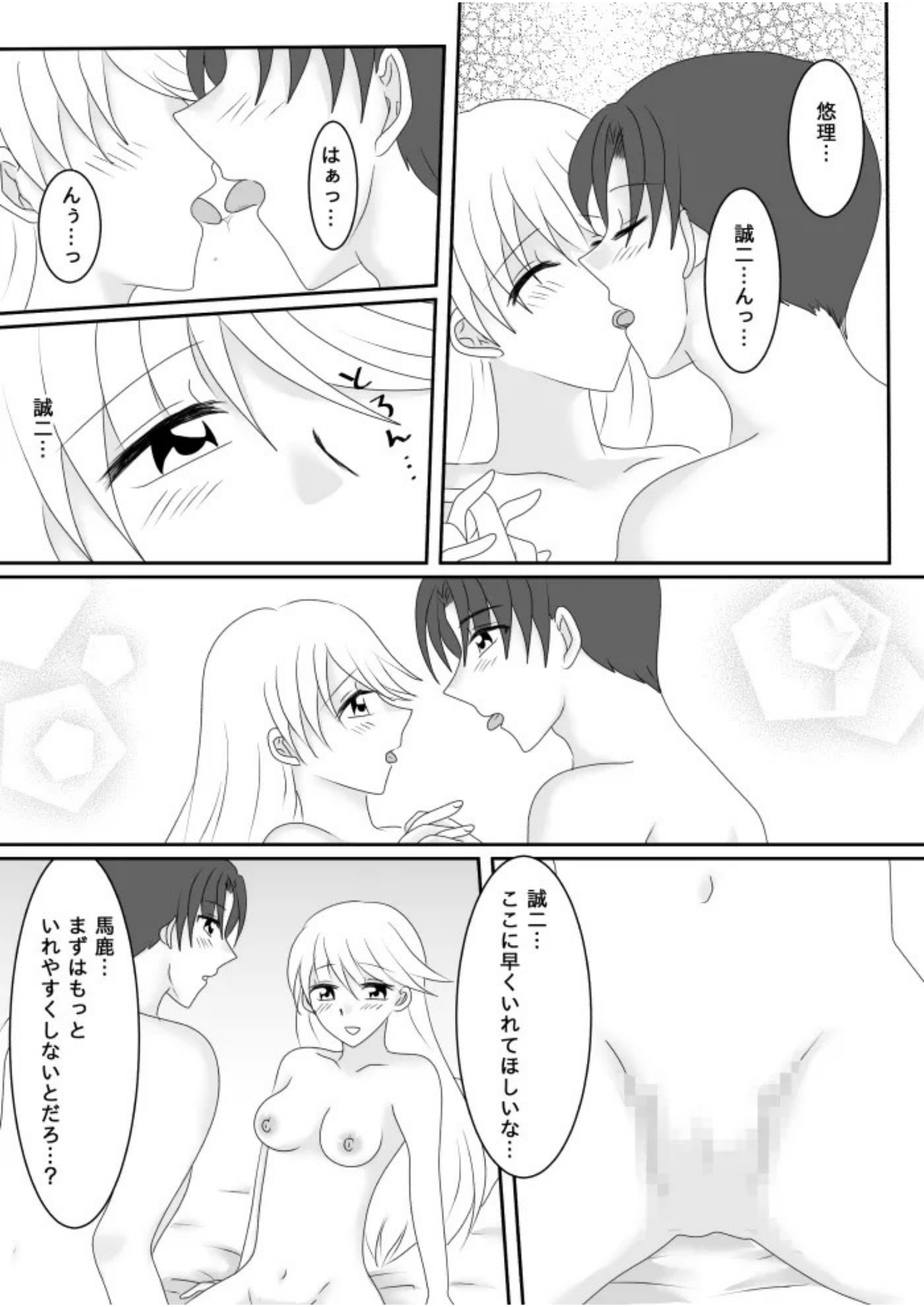
俺と
付き合ってほしいんだ…

嘘…!?

これは夢じゃないよね…？
再会できただけでも
嬉しかったのに…
こんな良い事があって良いのかな

誠二…!!
私も気持ちは変わってないよ…!
Amusement Pa
誠二と恋人同士になってからは
前世の分を取り戻すみたいに
一緒に過ごす時間が増えた
そして数か月後…

本当に良いんだな…？
うん…
誠二とエッチしたい…


悠理…
誠二…んっ…
はぁっ…
んぅ…っ
とろん…
誠二…
誠二…
ここに早くいれてほしいな…
馬鹿…
まずはもっと
いれやすくしないとだろ…？

じゃあ…
指をいれるからな
ぬ-ぷっ
あっ
大丈夫か？
うん…
平気…だよ
もっと中を
ほぐさないとな
お前に痛い思いさせたく
ないし…
とん
とん
くちゅっ
くちゅっ
あぁんっ♡
せいじっ…
気持ち
良い♡
えっ…
指だけで
そんなに感じてるのか？
がしっ
ぬ-ぷっ♡
ぬ-ぷっ♡
あっ♡
だって
せいじの
手だからあっ

俺だから感じてる？
ぬぷっ
あっ♡
うんっ♡
そんなに気持ち良い？
ぬぷっ♡
あっ♡
うん…っ
気持ち良い…
もう少しでイっちゃう…
悠理…
ぬぷっ♡
ぬぷっ
イっていいぞ
ぬぷっぬぷっ
あぁあっ♡
とろぉっ
あ…あぁっ…
はぁっ
はっ

ぐらっ
えっ
どさっ…
悠理…
俺ももう我慢できない…
誠二…
わっ…凄い…
さすがに
まだ中出しは
できないからな…
ちょっと待っててくれ
どきどき…
誠二…
ちゃんとゴム用意して
くれてるんだ…

ふぅ…
つけれた…
ぴとっ
あっ
誠二…
早く…私の中にきて…
あぁ…悠理…
いれるぞ…

ぬ
ぱっ
あっ♡
あ…あぁ…
誠二のが
どんどん入ってくる…
あ
あっ
ゴム越しでも
すごい…熱い…
ぬぷっ…
ずっ
ずっ…ちゃっ
あぁっ♡
はぁ…っ
もう少し…
んっ♡
ばちゃ
あぁん♡

悠理…っ
気持ち良いか？
はぁっ
はっ
ぬぱっ
ぬぱっ
あっ♡
あんっ
はぁっ
はっ
ぬぱっ♡
ぬぱっ♡
せいじっ
あっ♡
ぬぱっ
ぬぱっ
あっ♡
せいじ…っ♡
あっ♡
うんっ♡
はぁっ
はっはぁ
ぬぱっ
ぬぱっ
すごい
気持ち
良いよぉ♡

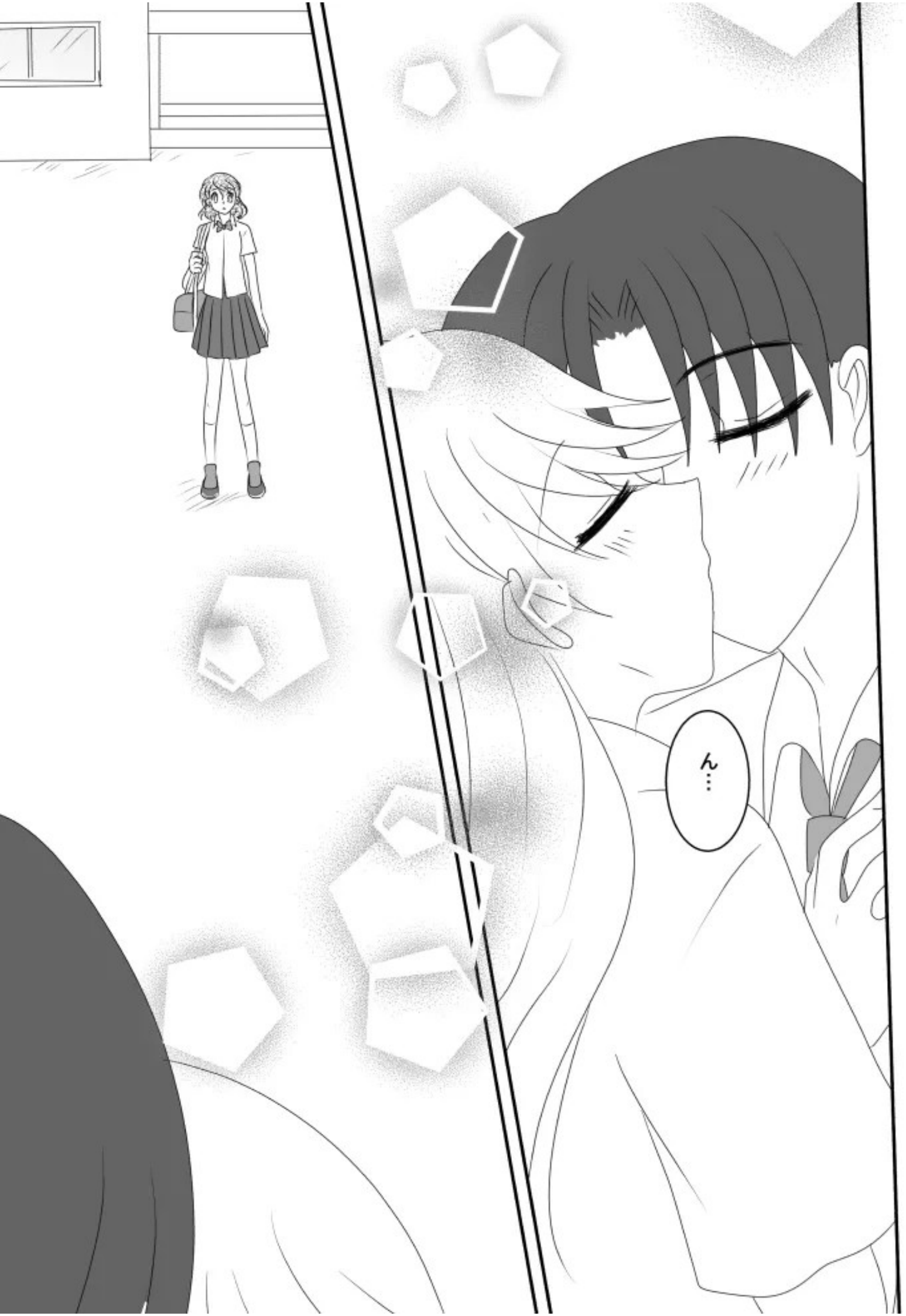
やばい…
俺…そろそろイきそうだ…っ
あっ♡あぁっ
ぬぷっぬぷっ
あっ♡私も…っイきそうだよ♡
はぁ…
はっ
せーじっ♡
ぬぷっ
ぬぷっ
とんっ
とんっ
ぬぷっ♡
ぬぷっ♡
あっ♡イくっ♡イっちゃう♡
あぁ〜♡
くっ
どぴゅっ
びくんっ

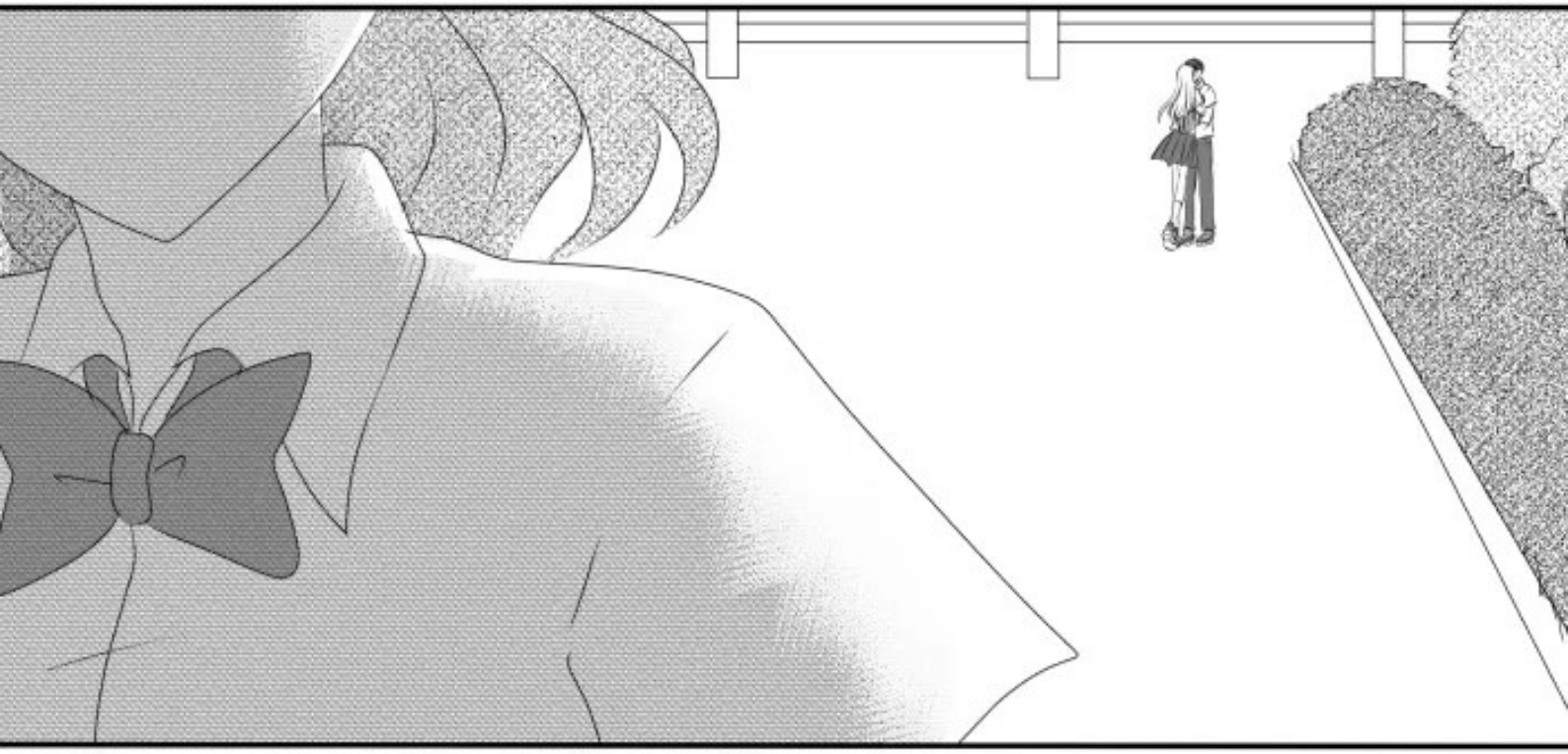
はぁ…

はぁ…

どうか…
この幸せが壊れませんように…

数日後…

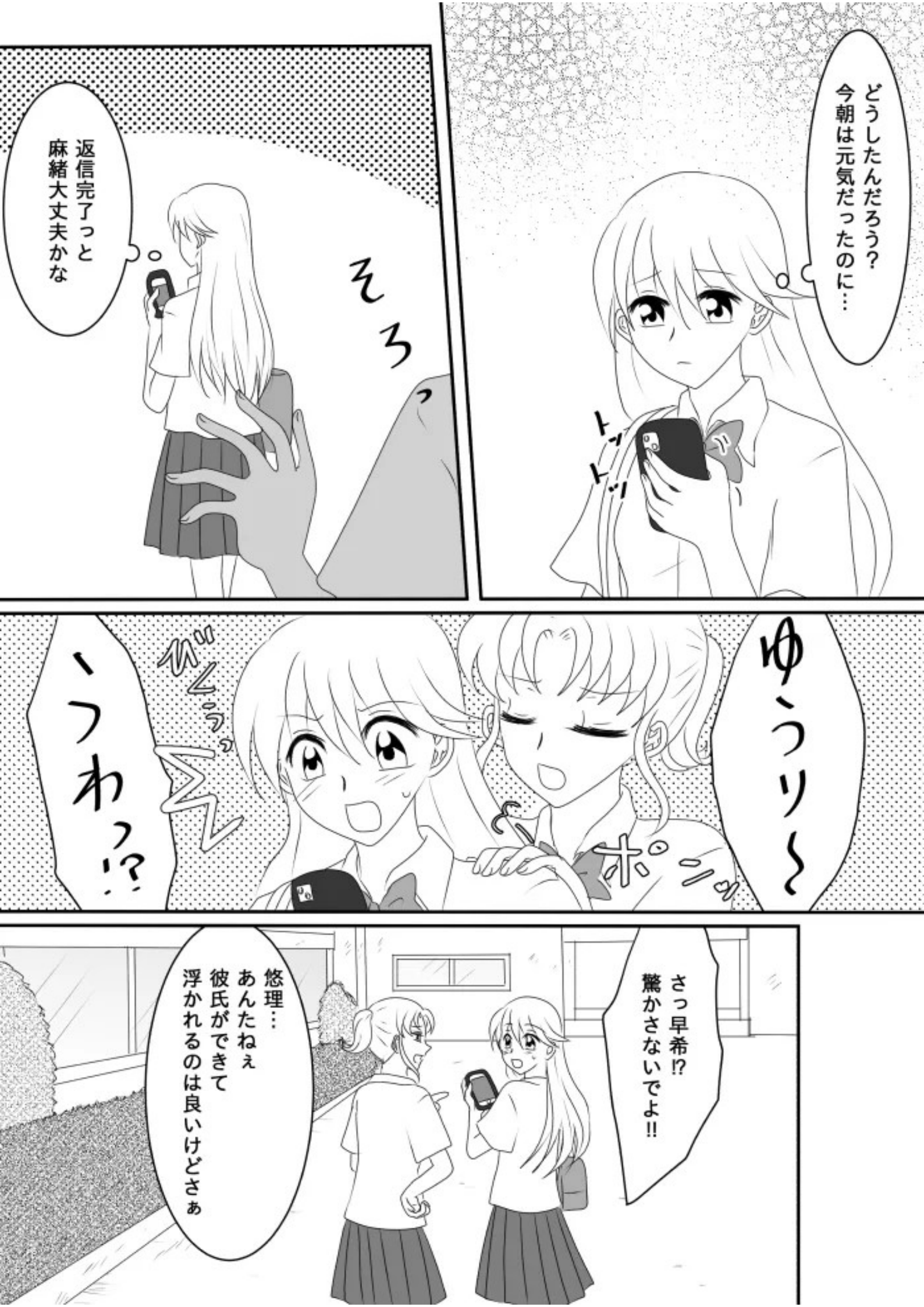

ん…

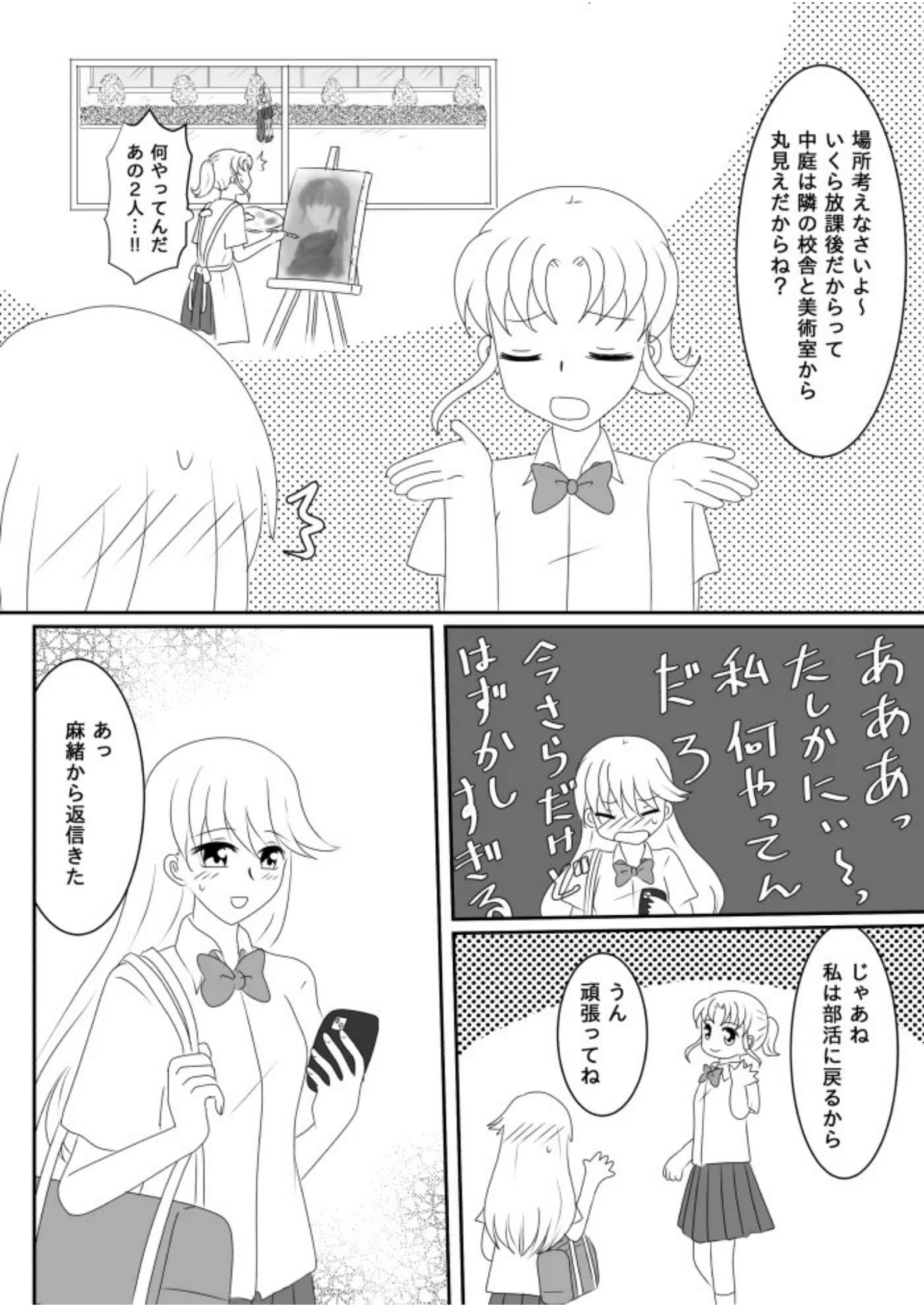


さてと
麻緒との約束に
遅れないようにしなきゃ
ん？

じゃあ
また明日な
うん
また明日

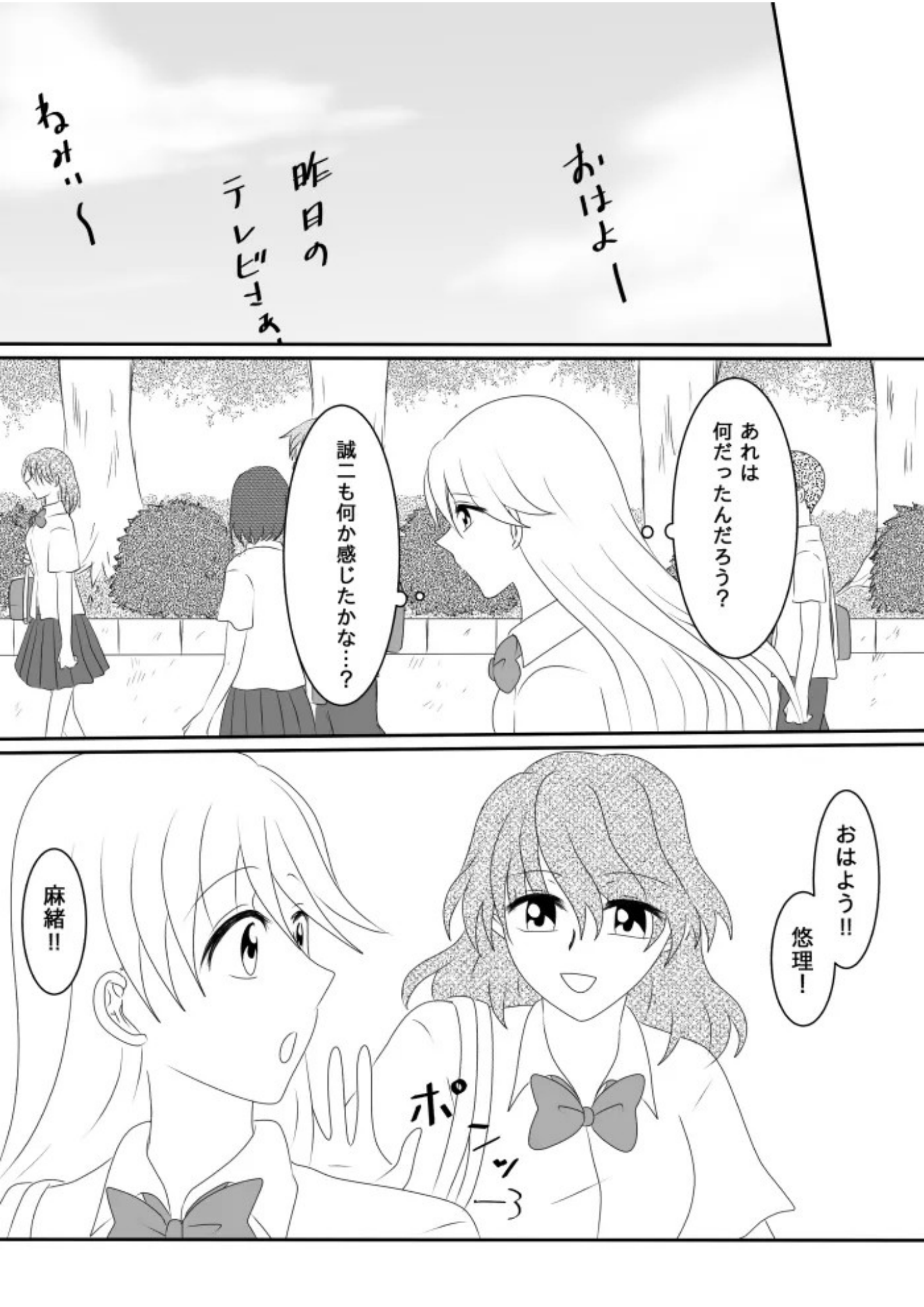
ごめん
ちょっと具合が悪くなっちゃった
16:10
え？
先に帰るね
16:10


どうしたんだろう？
今朝は元気だったのに…
トッ
トッ
そろっ
返信完了っと
麻緒大丈夫かな
ゆっくり～
ポーン
ﾊﾞｲﾌﾞﾚｰｼｮﾝ
うわっ!?
さっ早希!?
驚かさないでよ!!
悠理…
あんたねぇ
彼氏ができて
浮かれるのは良いけどさぁ

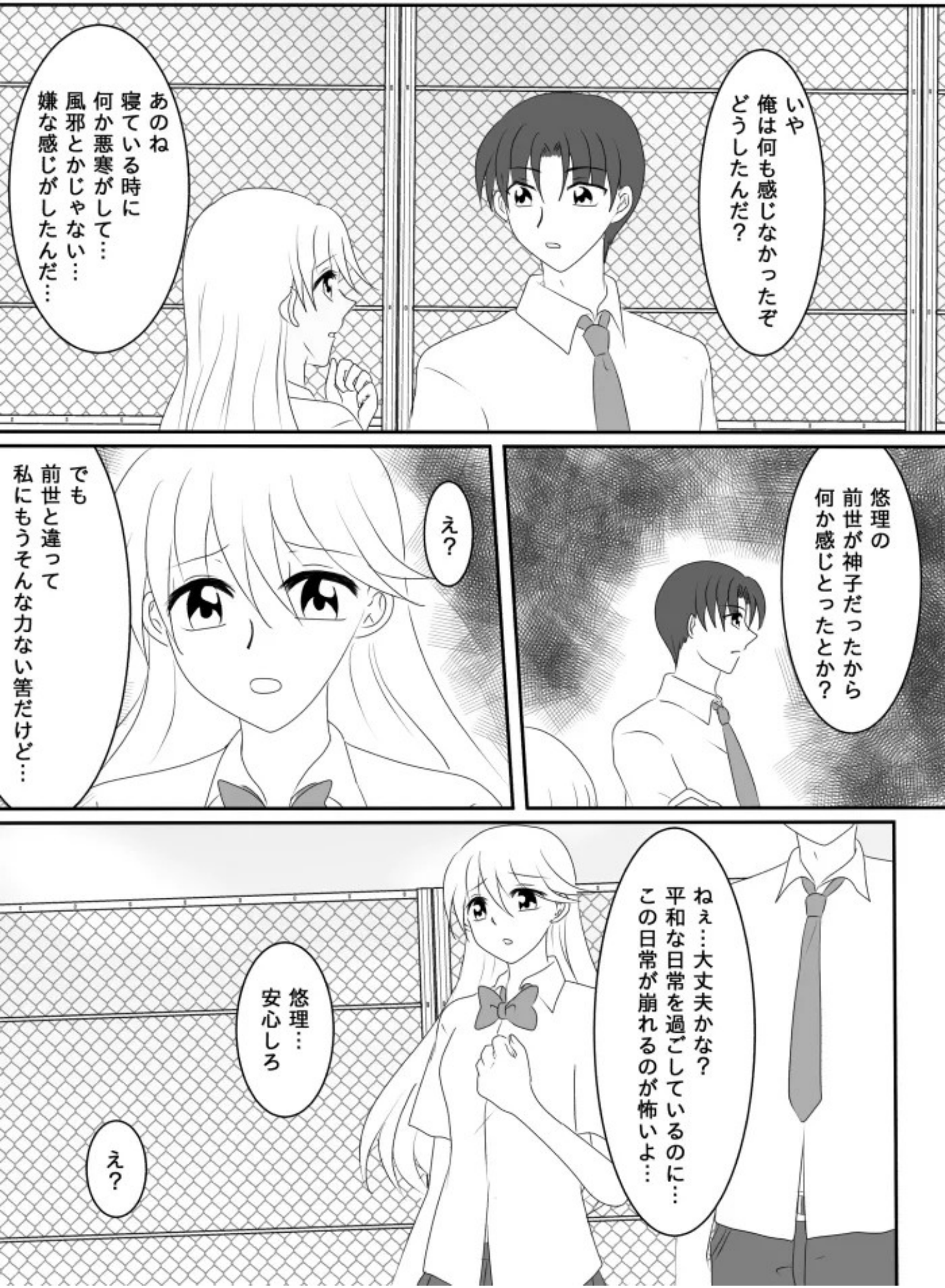

場所考えなさいよ～
いくら放課後だからって
中庭は隣の校舎と美術室から
丸見えだからね？
何やってんだ
あの2人…!!
ああああっ
たしかにぃ～っ
私何やってん
だろ
今さらだけど
はずかしすぎる
じゃあね
私は部活に戻るから
うん
頑張ってね
あっ
麻緒から返信きた

え？今朝は元気だったよね？
大丈夫？夏風邪？
既読
16:17
大丈夫だよ～。夏風邪ではないかな？
寝て大人しくしてれば治ると思う
ケーキは明日食べようね
ホッ
良かった…
具合そこまで悪くないみたい…

ぞわっ
っ!?
ガバッ
な…何?
今の…


おはよー
昨日の
ねぇ…
あれは
何だったんだろう？
誠二も何か感じたかな…？
おはよう!!
悠理！
麻緒!!
ポーン

具合はもう大丈夫なの？
うん
もう平気
あっ悠理
今日家に来て
ケーキ食べて勉強会しない？
テストも近いし
あっ！
それ良い！
2-B
じゃあ麻緒
また放課後ね！
うん玄関で
待ってるからね
夜中に
何か感じなかったかだって？


いや
俺は何も感じなかったぞ
どうしたんだ？
あのね
寝ている時に
何か悪寒がして…
風邪とかじゃない…
嫌な感じがしたんだ…
悠理の
前世が神子だったから
何か感じとったとか？
え？
でも
前世と違って
私にもうそんな力ない筈だけど…
ねぇ…大丈夫かな？
平和な日常を過ごしているのに…
この日常が崩れるのが怖いよ…
悠理…
安心しろ
え？

俺がまた勇者になって
世界もお前も守る!!
誠二…

ありがとう…
そうなった時は
私も神子になって戦うよ!

誠二…ありがとう
何があっても大丈夫…
前世のように乗り越えられるよね…！

キーン
コーン
カーン
コーン

また明日なー

何かあったら
すぐに俺に言うんだぞ

麻緒～
待った？

うぅん
私もさっき来た所だよ

第2話
『魔王復活 そして神子は穢される』

同じ人物が
出てくる夢を
何度も見るようになった

いつもモヤがかかった感じで
誰だかわからない…
この夢を見るようになったのって
そもそもいつからだっけ…？
あれ…？
そういえば
悠理にあの転校生の
誠二を紹介されてからのような…
麻緒

ヤキモチを焼いてるのは
当たってるよ早希…
でもね私の気持ちは
友情じゃない…

小学生の時に出会ってから
悠理の事が好きなの…

待ち合わせに
遅れないようにしないと…
ん？

部活の見送りかな…
いつも一緒にいるっぽいし
声をかけて…
2人で見送って
そこから一緒に悠理と
帰っても良いよね…

悠理…！

悠理と誠二…

ハァッ
ハッ
ハァ…
ハッ

ここまで
走ってきちゃった…
ハァー…

ポロッ…
付き合ってるんだから
そりゃあキスぐらいするよね…
あぁ…いざ見ちゃったら
ショックで涙が出てきた…

うぅ…っ
こんな泣いた姿で
一緒に帰るとか無理だ…
悠理にニャインしとこう…
ぐすっ
悠理に
嘘ついちゃったな…
グッグッ
悠理からだ…
え？今朝は元気だったよね？
大丈夫？夏風邪？
返事
返さないと…
……
いつも通りに
返事できたかな…
スッキッ
っ…

ただいま…
うぅ…
さっきより
頭痛が酷くなってるかも…
まさか本当に
具合悪くなるなんて最悪…
やばい…
ズキッ
薬飲んだ方が
いいかも…
ズキッ

えっ？何…？
今のは夢に出てきた…
あの2人…？
ズ
急に…なんで…
ズキ
ズキ
あ…っ
ドサ

神子…
素晴らしい力を持っている…
この力さえ手に入れれば
世界を征服するのも容易くなる…
必ず手に入れてみせるぞ
神子よ…
国王陛下!!
勇者の私が…
いえ我々が必ず
魔王を倒してみせます!!
私をたおすだと…?
そんな事できるものか!!
我が神子の
祝福の力を勇者セイジへ
捧げたまえ
加護があらん事を
何故だ神子!!
お前の力は私にこそ
ふさわしいというのに!!

神子…
今度こそ…
お前を私の物に…

あぁ…神子!…
生まれ変わっても
お前をみつけて…
必ず!!
必ず手に入れてやる…!!
はっ

頭痛がおさまった…
ふふ…
前世の記憶を思い出す為…
だったのかな？
ムクッ
えぇ
全て思い出したわ

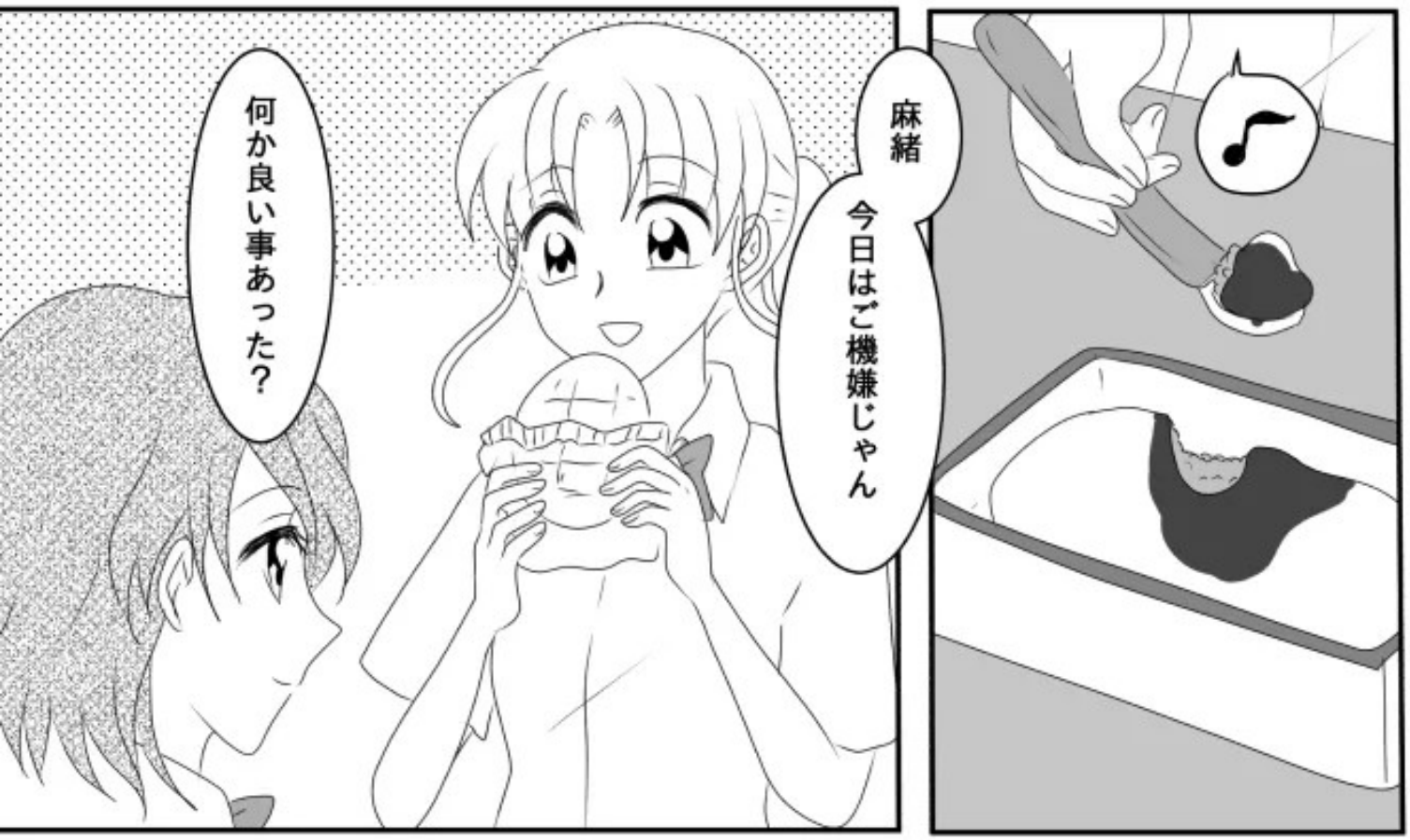
悠理…
あなたと出会った時に
運命を感じた気がしたのは
前世からの繋がりだったのね…

誠二…
憎き勇者の生まれ変わり!!
目的を邪魔したばかりか
神子も奪った男…
ふふふ…
そして私は
魔王の生まれ変わり…!!
魔王の記憶が蘇ったんだもの
悠理を今度こそ手に入れるわ…
どんな手を使ってでもね…

夜中に何か
感じなかっただって？
。
ふふふ…魔王の復活を
感じ取ったのね…
さすが悠理…

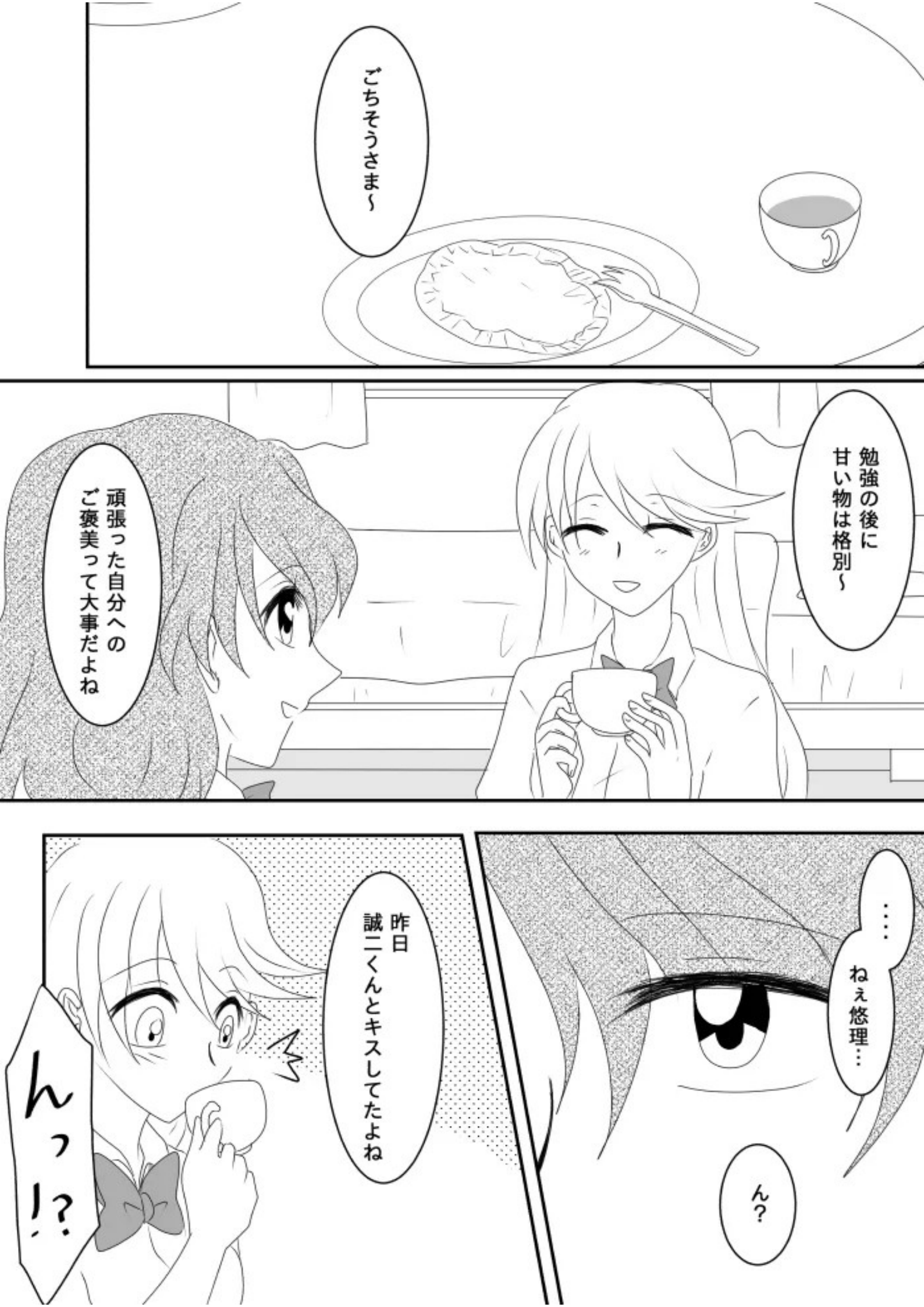
俺がまた勇者になって
世界もお前も守る!!
。
また勇者になる？
世界も悠理も守る？

今気づいていない時点で
手遅れよ

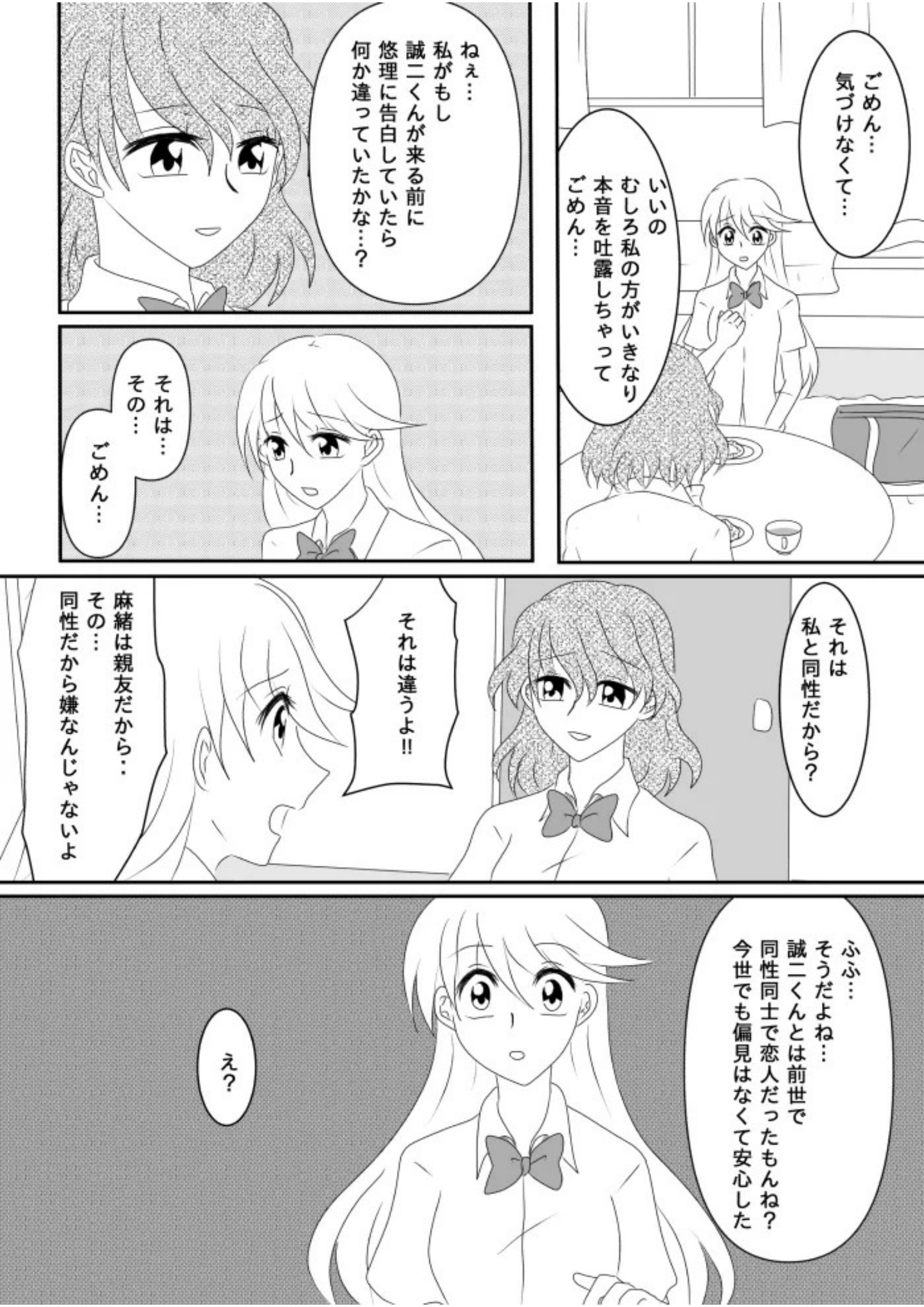

麻緒
今日はご機嫌じゃん
何か良い事あった？

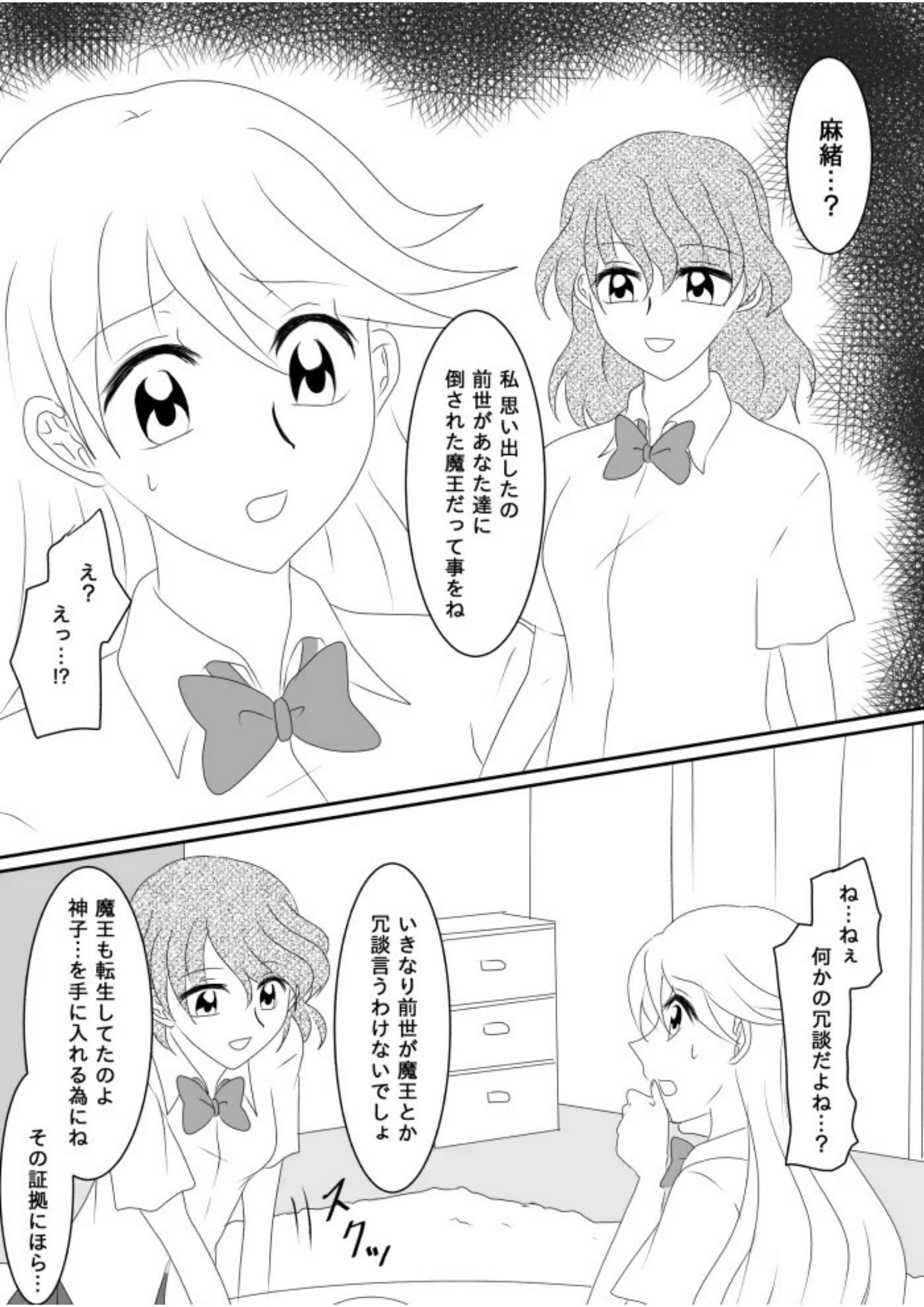
うん
悠理と今日帰ったら
一緒に勉強会して
ケーキ食べる約束してるんだ
ケーキはともかく
勉強会でご機嫌になれるの
凄すぎない？
麻緒…ほんと悠理が好きね

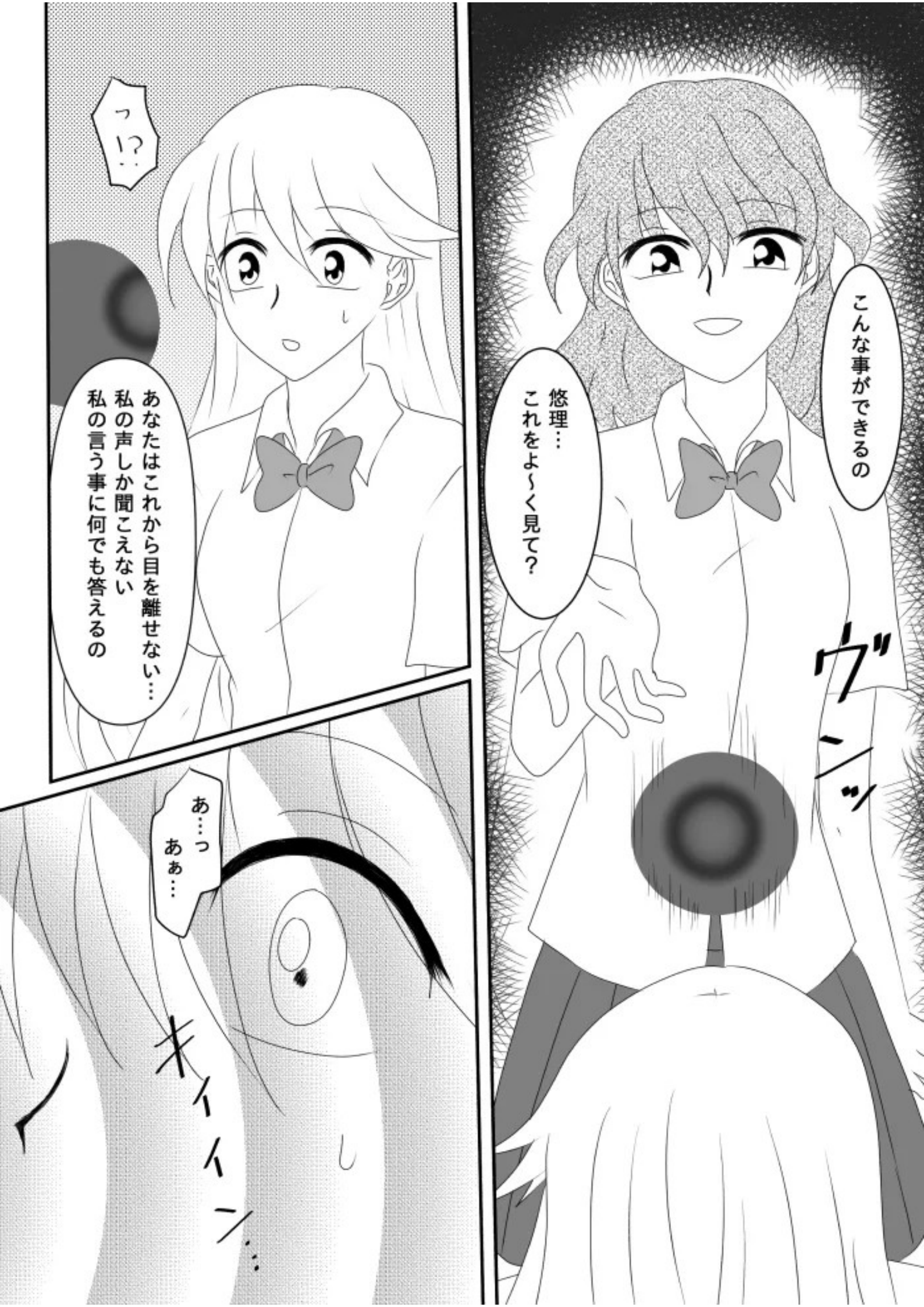
麻緒～
待った？
うぅん
私もさっき来た所だよ


ごちそうさま～
勉強の後に
甘い物は格別～
頑張った自分へのご褒美って大事だよね
……
ねぇ悠理…
ん？
昨日
誠二くんとキスしてたよね
んっ!?

悠理と誠二くんが
付き合ってると知った時も
ショック受けたんだけどね…
2人が付き合ってるのわかってたのに
キスしてるのを目撃しちゃって
悲しさでいっぱいになっちゃったんだ


ごめん…
気づけなくて…
いいの
むしろ私の方がいきなり
本音を吐露しちゃって
ごめん…
ねぇ…
私がもし
誠二くんが来る前に
悠理に告白していたら
何か違っていたかな…？
それは…
その…
ごめん…
それは
私と同性だから？
それは違うよ!!
麻緒は親友だから…
その…
同性だから嫌なんじゃないよ
ふふ…
そうだよね…
誠二くんとは前世で
同性同士で恋人だったもんね？
今世でも偏見はなくて安心した
え？

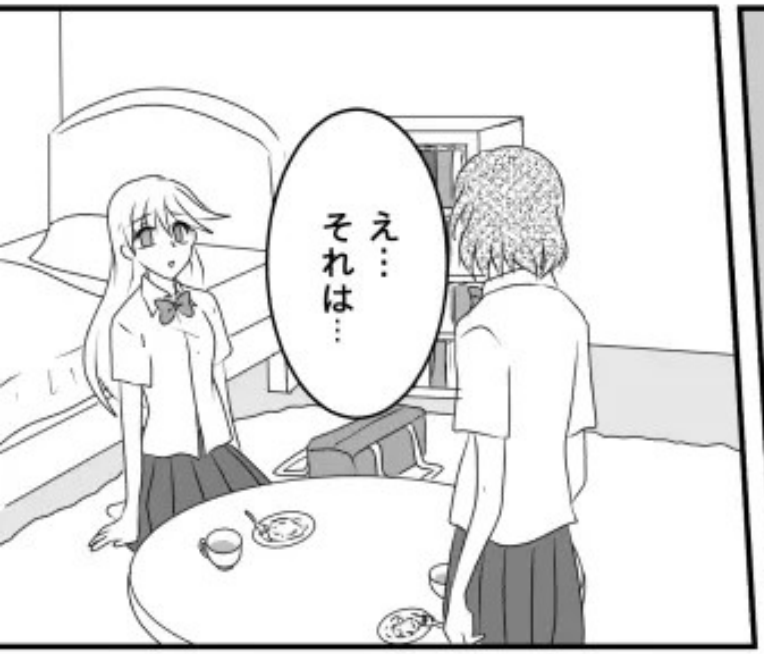

麻緒…？
私 思い出したの
前世があなた達に
倒された魔王だって事をね
え？
えっ…!?
ね…ねぇ
何かの冗談だよね…？
いきなり前世が魔王とか
冗談言うわけないでしょ
ストクッ
魔王も転生してたのよ
神子…を手に入れる為にね
その証拠にほら…

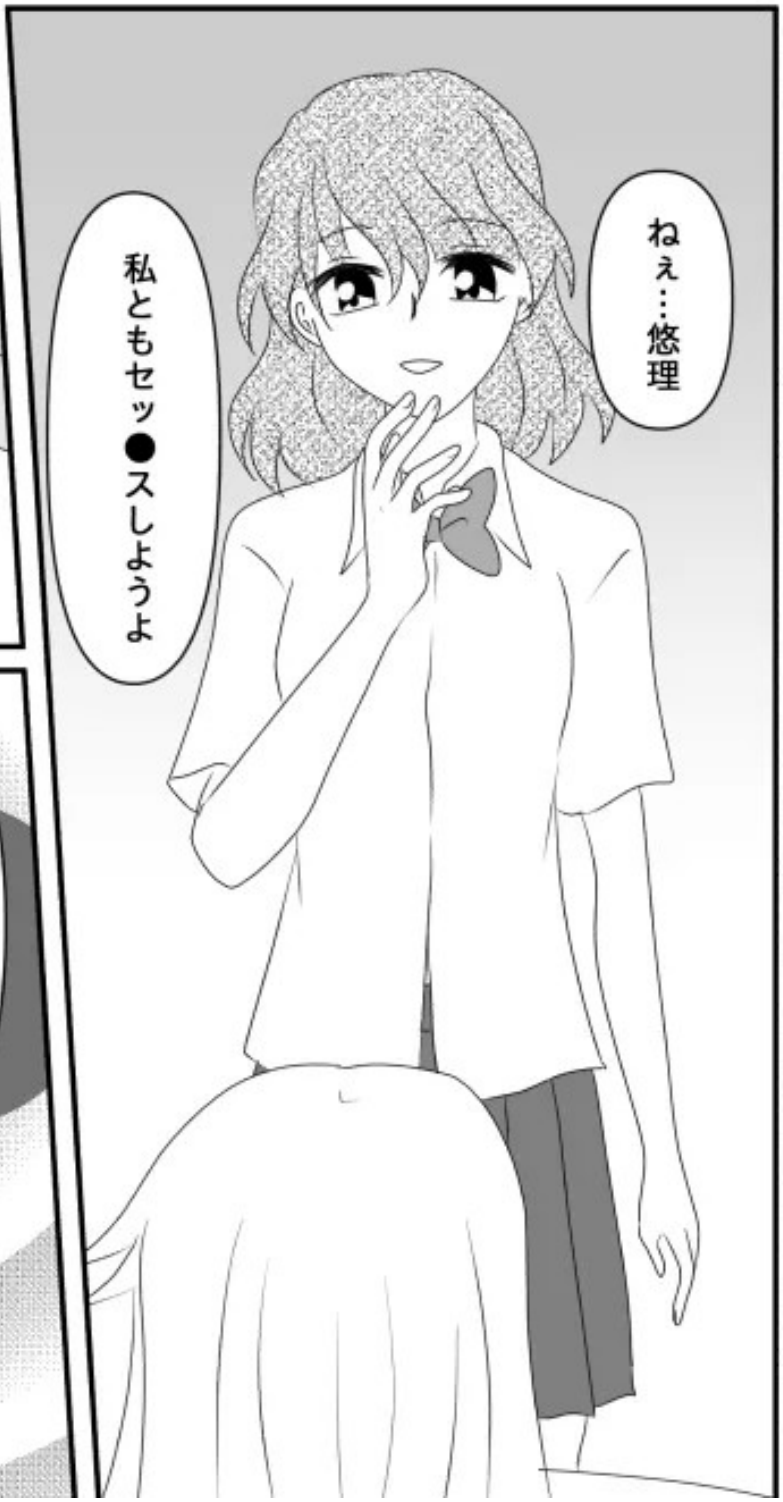

こんな事ができるの
悠理…
これをよ～く見て？
ヴ～ン
っ!?
あなたはこれから目を離せない…
私の声しか聞こえない
私の言う事に何でも答えるの
あ…っ
あぁ…
キィィィン…

ほら
だんだん気が遠くなってきた…
ま…お…
やめ…
キィィィィン…
あぁ…
本当に目がそらせない…
だめ…頭が…
スゥ…
麻緒…
私は麻緒の言うことを
何でも聞くわ…

悠理が今世で神子の力をまだ覚醒しきれてなくて良かった…
おかげで簡単に催眠をかける事ができたわ
さぁ質問よ悠理…誠二くんとはもうセッ●スをしたの？
うん…したよ
へぇ…どっちから誘ったの？何でセッ●スしたの？
私だよ…誠二と前世ではセッ●スする余裕なんてなかったから…平和なこの世界でまた出逢えて…恋人同士にもなれて嬉しかった…だからセッ●スしたかったの
セッ●スは誠二の家に行ってしたよ…
そうなんだそれで？気持ちよかった？

うん…
気持ちよかった…


え…
それは…


ねぇ…悠理
私ともセッ●スしようよ

ほら…もう1度
これをよく見て…
私ともセッ●スしたい
そうよね？

うん…
麻緒とも
セッ●スしたい…
気持ち良くしてほしい…
キィィン…
そうよ
それで良いの
ハッ
さぁ
始めよう悠理
どさっ

麻緒…
私を気持ちよくして…？
えぇ…
勿論よ…

悠理…

麻緒…

私 悠理!!
よろしくね麻緒ちゃん

同じように転生した私…

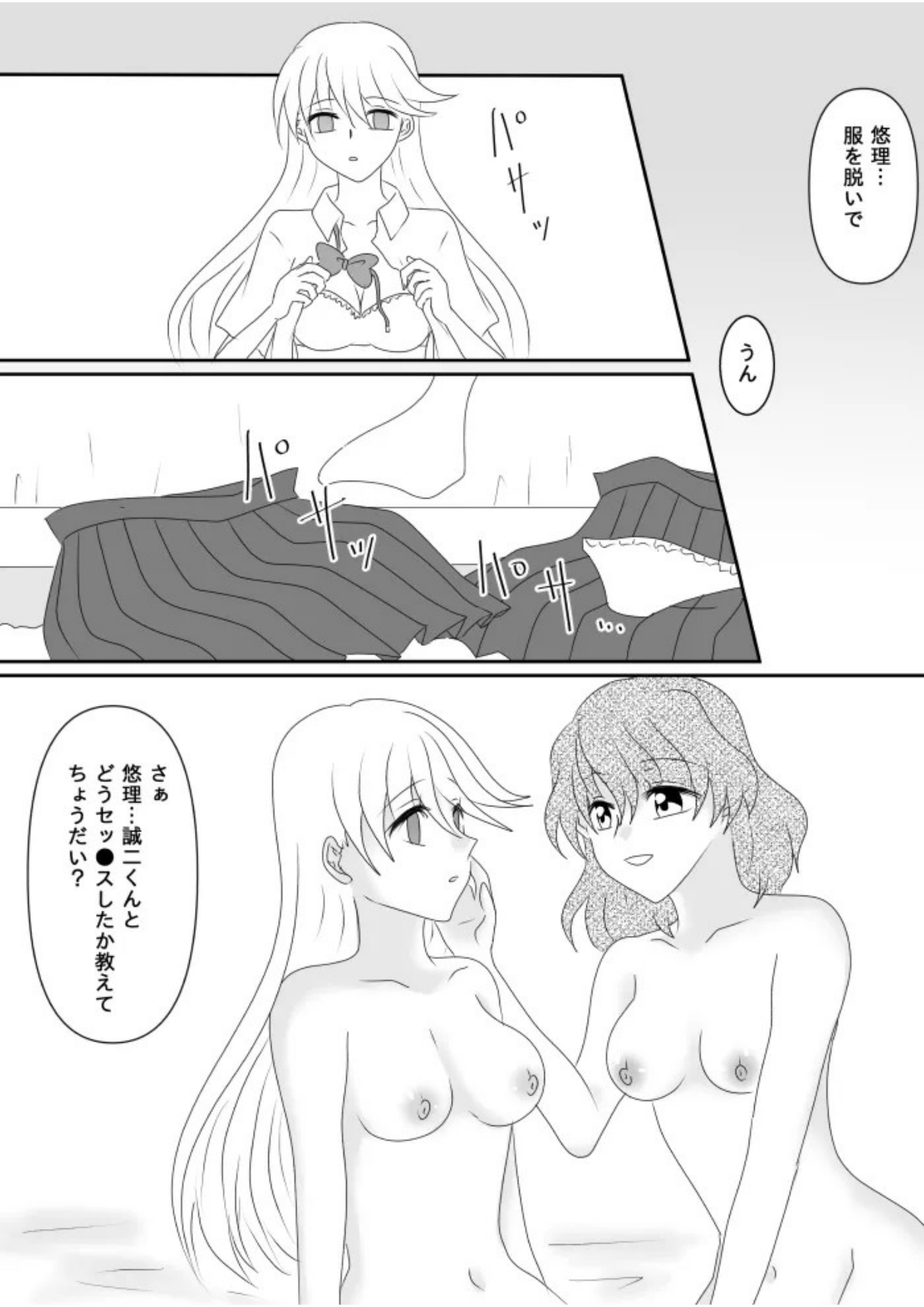
うん…

やっと…

私の物にできる…

前世では

手に入れられなかった
神子…ユーリを


悠理…
服を脱いで
パサッ
うん
パサッ
パサッ
パサ…
さぁ
悠理…誠二くんと
どうセッ●スしたか教えて
ちょうだい？

へぇ…
じゃあ
私はクンニを
しちゃおうかなv
ぺろっ
えぇとね…
まずはね…
私のま●こに
指をいれてもらって
ほぐしてもらったよ
ちゅっ
ちゅっ
ああっ
ちゅっ
ちゅっ
あぁんっ

ちゅっ
誠二にも…
まだ舐められてないのに…っ
ちゅっ
ちゅっ
ふふふ…
だからよ悠理
私が初めての
クンニをもらってるの
ちゅっ
ちゅぱっ
どう？
気持ち良い？
ちゅうぅ～
あっ…
ちゅっ
ああっ
あんっ
びくっ
びくっ
ちゅうぅ

あっもう…
ダメえっ
ちゅっ
びくっ
ちゅ～～ん
あっ ああ～～ん
くちゅっ
びくんっ
ふふふ…
もうイっちゃったの？
悠理は感じやすいのね
ドサッ
はあっ
はあっ
とろぉ～
その悠理の処女を
奪ったのが
誠二だって事が
腹立つけど…
ま…麻緒…

麻緒…
はぁっ
はぁっ
お願い…
指をいれて…
我慢できない…っ
悠理…
くすっ
わかった…
指もいれて
もっと気持ちよく
してあげるv
ぬぷっ
あっ

悠理
ほらv
中に簡単に
指が入ってる
わかる？
ぬぷっ
ぬぷっ
ぬぷっ
あっ
あぁっ
ちゅっ
とんっ
とんっ
ちゅっ
あっ
あんっ
ぬぷっ
あぁ…
クリトリスも
触ってあげるねv
キュッ
ぬぷっ
ぬぷっ
ぬぷっ
あぁっ
そこは
だめぇ
ぬぷっ
あぁっ
やっ…
あんっ
ぬぷっ
ふふふ…
可愛い悠理…
もっと可愛い声を
きかせてv
私の指でまたイって
ぬぷっ
あぁっ
ぬぷっ
ぬぷっ
あっあっ
だめっ
まおっ
イっちゃう…っ

イってちょうだい♡
あぁ…
あぁーー♥
ふふふ…ほんと感じやすいんだから♡
ぺろっ
さぁ悠理…仕上げよ
え？
はぁはぁ…

本当はね魔力で
ち●こを
生やしたかったんだけれど
まだ私の魔力は
覚醒しきれてないの…
だからま●こに
魔の力をためるわ
貝合わせで
悠理の中に魔の力を
入れるわね
それって
気持ち良いの？
はぁっ…
はぁっ…
もちろんv
一緒に気持ち良くなろうv

ぴとっ
ぱちゅ
ぱちゅ
すごいっ
こすれて…っ
気持ち良いっ
ぱちゅ
ぱちゅ
ね？悠理
気持ち良いでしょう？
あ
あぁっ
すごいっ
私も気持ち良い
ぱちゅっ
あっ
あん
ぱちゅっ
ぱちゅ
ぱちゅ

ゆうりっ
ゆうりっ
ぱちゅっ♡
あんっ♡ひゅっ♡
ぱちゅっ♡
んっ♡
やっ♡
ぱちゅっ♡
あっんっ
まおっ…
はあっはっ
ぱちゅっ♡
またイっちゃうっ…
ぱちゅっ♡
んっ♡
あっ♡
ぱちゅっ♡
あんっ♡
こんなに気持ち良くなってくれて嬉しい♡
良いよイって♡私もイきそう♡
ぱちゅっ♡
あっだめっ♡だめっ♡もうっ…っ
ぱちゅっ♡

すごい
気持ち良かった…

悠理の中にも
魔の力を入れる事が
できた…

さぁ…
悠理…私のものになるのよ…
神子の力を
魔に変えるの…
スッ
スゥッ…
えっ？
おかしいわね…
本来なら魔の刻印が
もっとくっきりと浮き出る筈…

そう…
さすがに1回のセッ●スじゃ
私のものにできないか…
何度もセッ●スで
魔の力を悠理の中に入れれば
刻印もくっきり浮き出る筈…
その時こそ
悠理は私のものになる…
すぐに私のものに
できなかったのは
残念だけど
これはこれで楽しみが
できたわ
ん…？
麻緒…？
悠理…

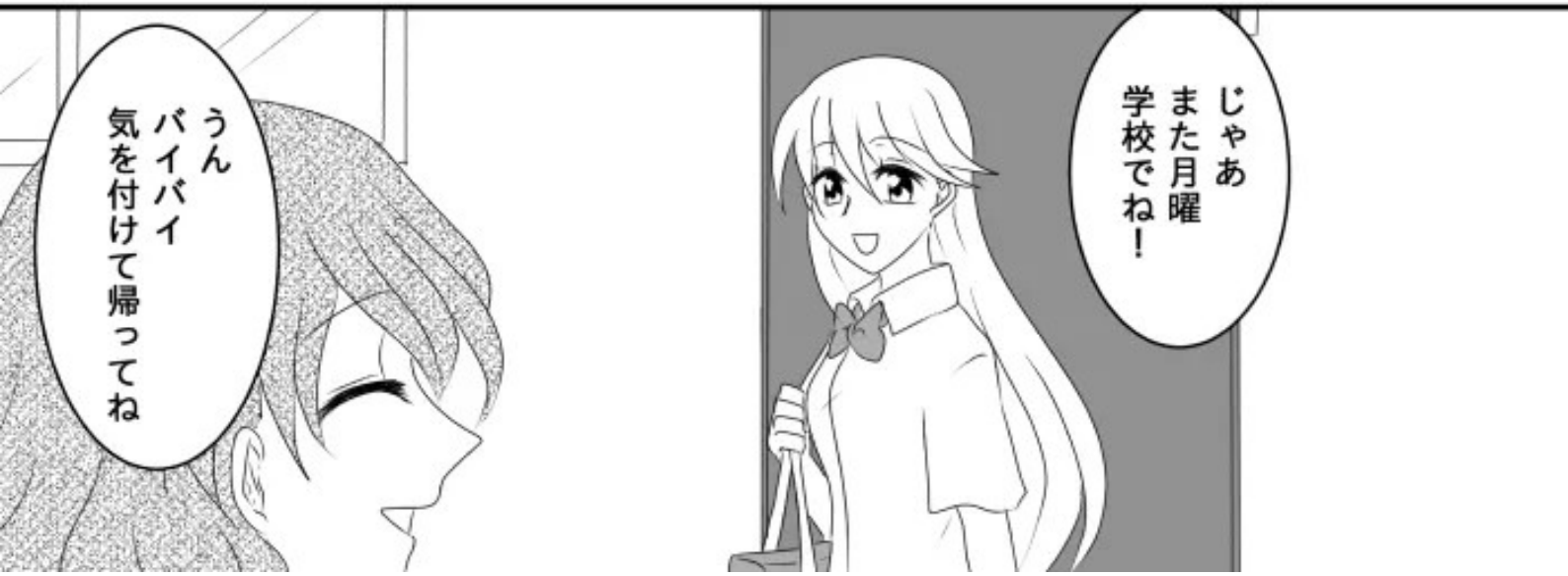
私とのセッ●ス…
気持ち良かった？
うん…
ねぇ悠理…
もう誠二くんとキスもセッ●スもしちゃダメだからね良い？
うん…しないよ…
私とだけキスとセッ●スをするの身体で覚えててね…
わかった…麻緒とだけ…キスとセッ●スする…

そう…
全て思い出すのは…

悠理…
悠理…!
ん…
悠理…
そろそろ起きないと
え?
麻緒…?

悠理ってば
ケーキ食べた後
寝ちゃってたよ？
嘘!!
私 寝ちゃってた!?
うん
疲れてたんじゃない？
ふふ…
ちゃんと
忘れているようね…

もう
こんな時間!?
起こしてよ麻緒!!
気持ちよさそうに
寝てるから…
でもさっき起こしてた
でしょう？
うぅ…
ごめん麻緒
良いって良いって


じゃあ
また月曜
学校でね！
うん
バイバイ
気を付けて帰ってね

じゃあ
またね…悠理

第3話
『穢されていく神子』

ぱちゅっ

はあっ

あっ

ぱちゅっ はあっ

あんっ

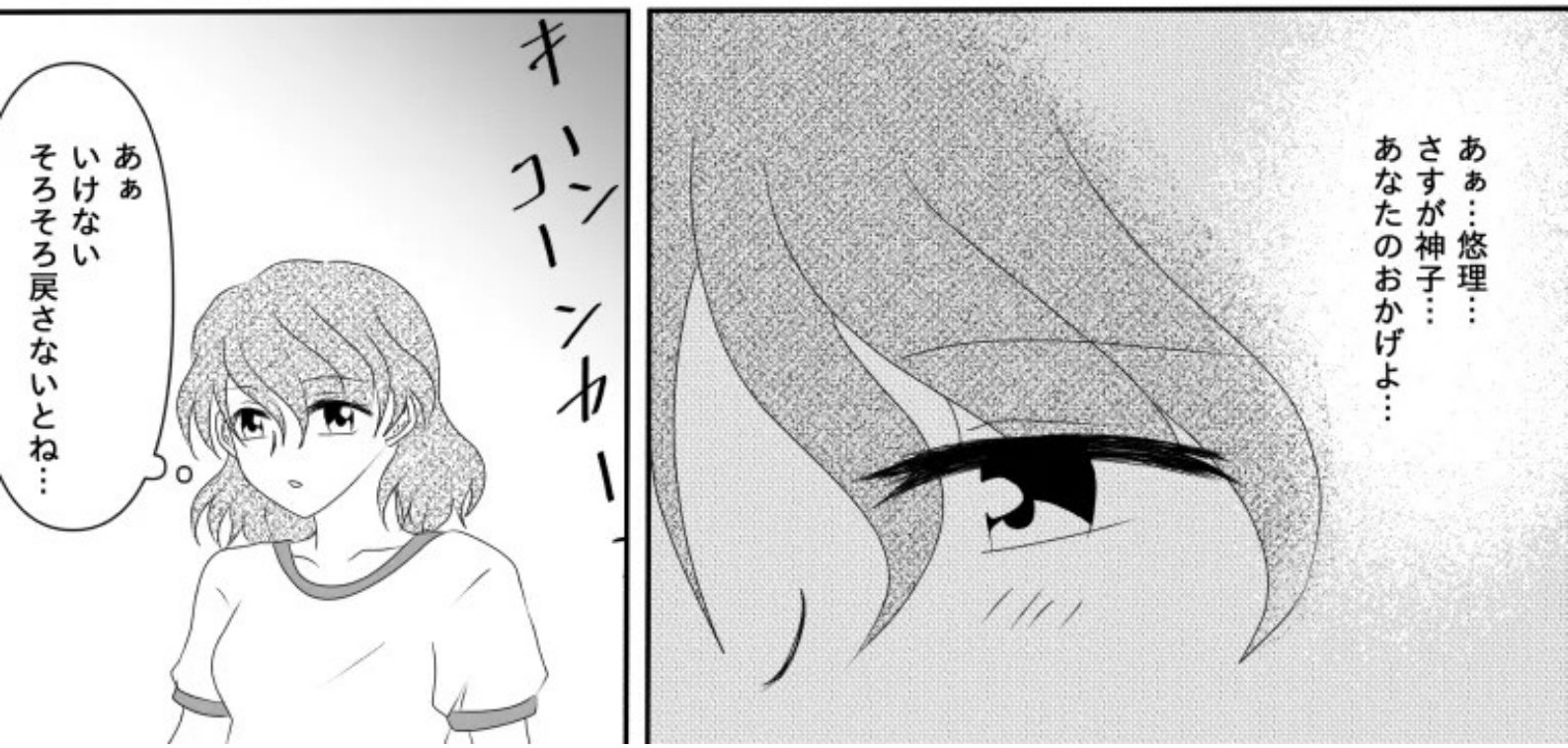
ぱちゅっ

あっまお…っ
ぱちゅっ
もう…っだめぇ
悠理…
私もイきそう…
ぱちゅっ
んんっ
あぁあ～
ひくっ
ひくんっ

ズズズ…
あっ…
どさっ
ふふふ…
刻印が前より
濃くなった…

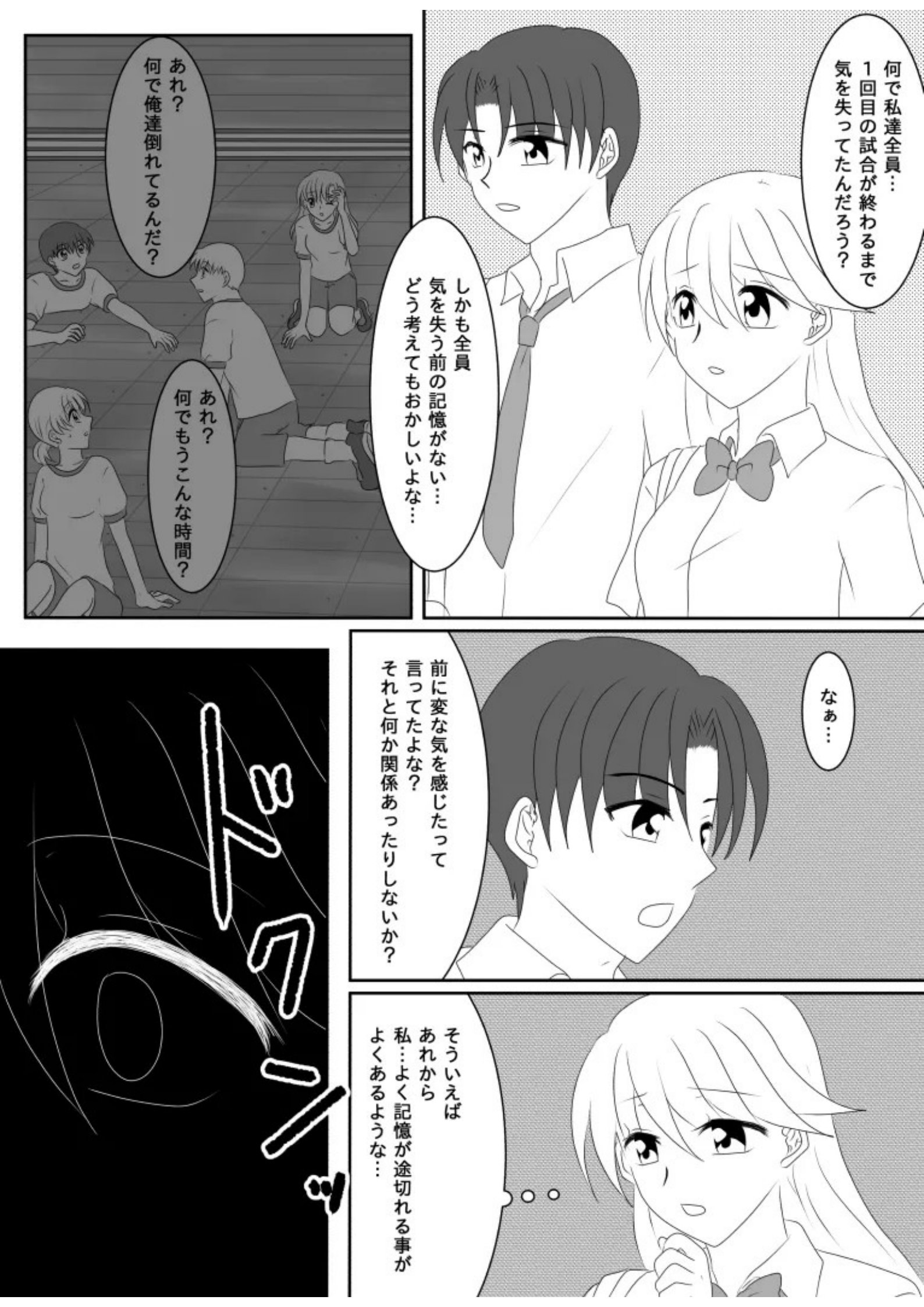
ズゥ…
!!

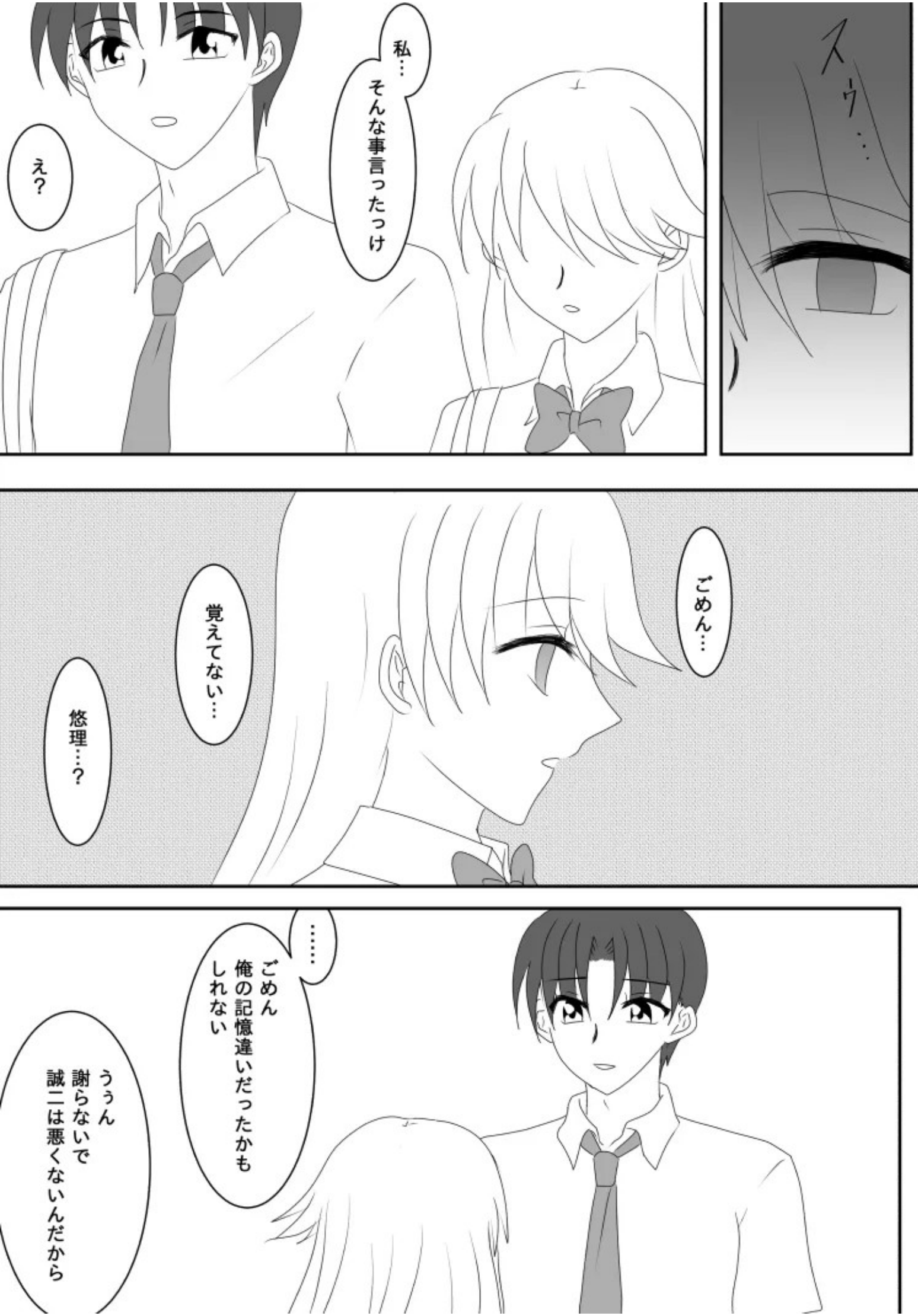
また力が戻ったわね…
悠理とセッ●スしてから
力が復活しているだけじゃなく
前世より増してる…
現にこうして
まだ完全に力が復活していない状態で
この体育館にいる生徒達を
眠らせる事が出来ているんだもの…


あぁ…悠理…
さすが神子…
あなたのおかげよ…
キーンコーンカーン
あぁ
いけない
そろそろ戻さないとね…

パチンッ
スゥ
スゥ…
スッ…
私の魔力にやられて
眠らされてる哀れな勇者…

あんたが
気づいた頃には…
悠理はもう
私のものよ…
なぁ…悠理
一体何だったんだろうな？
え？
今日の球技大会の事だよ…


何で私達全員…
1回目の試合が終わるまで
気を失ってたんだろう？
しかも全員
気を失う前の記憶がない…
どう考えてもおかしいよな…
あれ？
何で俺達倒れてるんだ？
あれ？
何でもうこんな時間？
なぁ…
前に変な気を感じたって
言ってたよな？
それと何か関係あったりしないか？
ドクン…ドクン…
そういえば
あれから
私…よく記憶が途切れる事が
よくあるような…

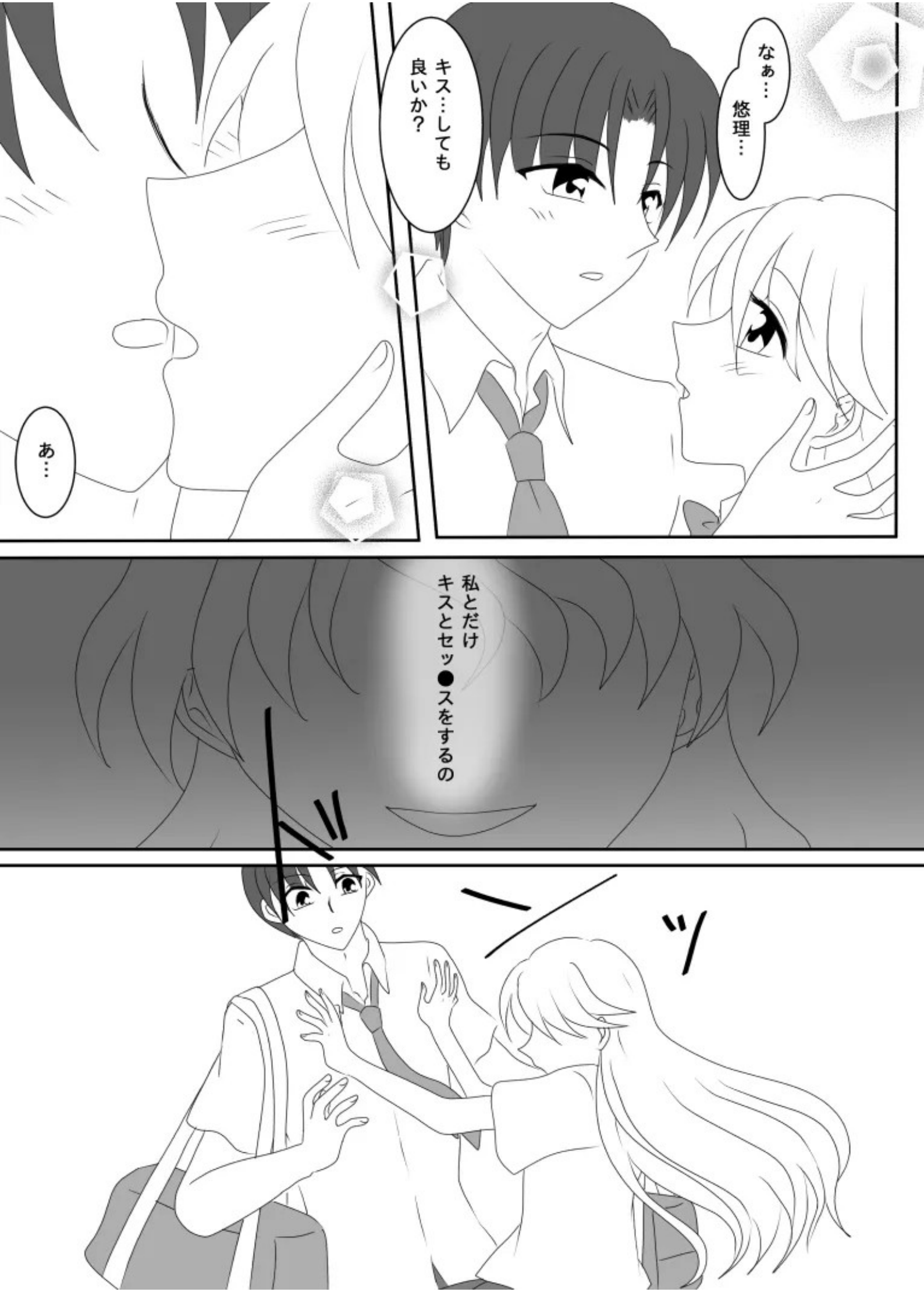

スゥ…
私…
そんな事言ったっけ
え？
ごめん…
覚えてない…
悠理…？
……
ごめん
俺の記憶違いだったかも
しれない
うぅん
謝らないで
誠二は悪くないんだから

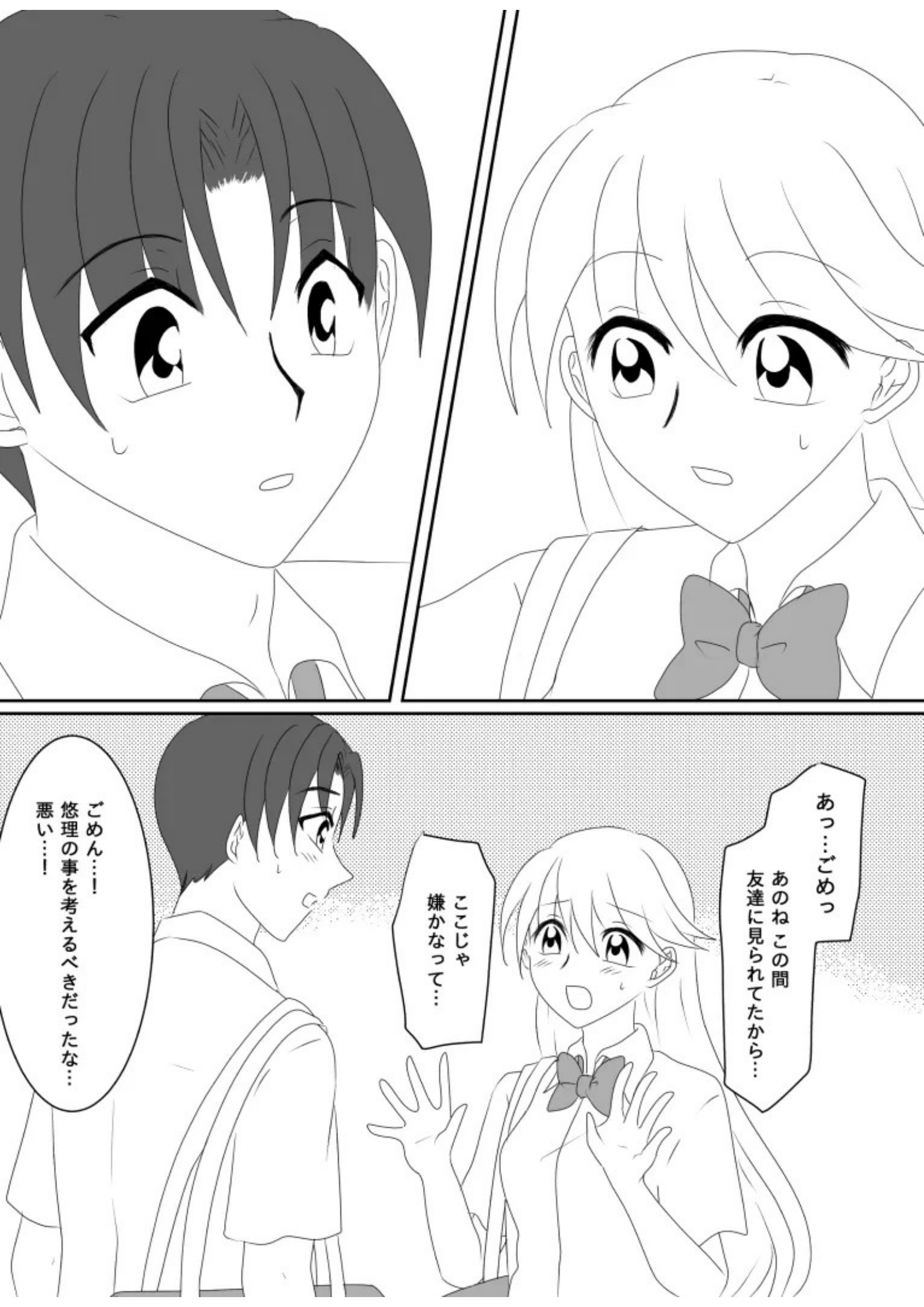
はっ
あれ？
私…
今何言ってた…？

え？
悠理の好きな所に行こう

……
あのさ
夏休み
俺が部活休みの日に
久しぶりにデート
行かないか？

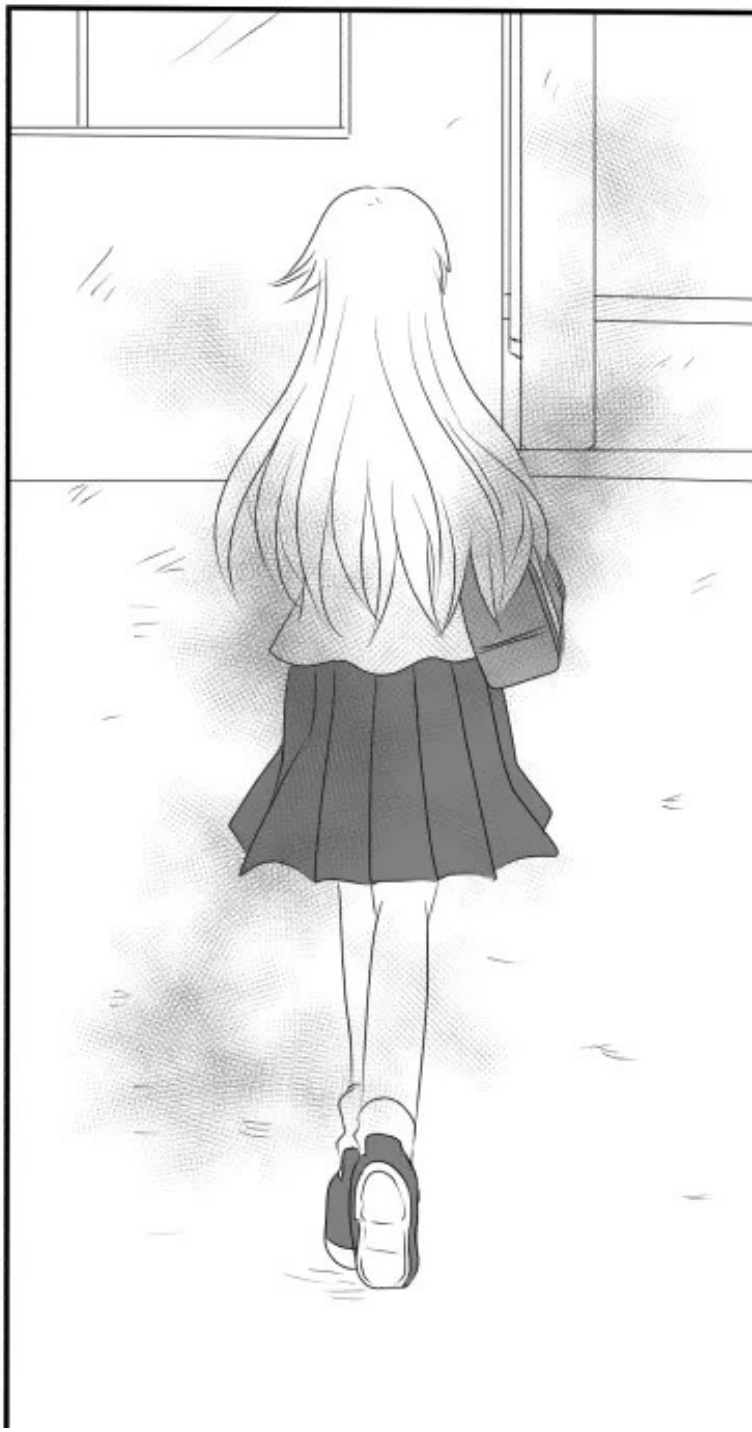
うん！行きたい！
テストもあったりで
最近デート出来てなかったもんね
あぁだからさ
思いっきり
楽しもう

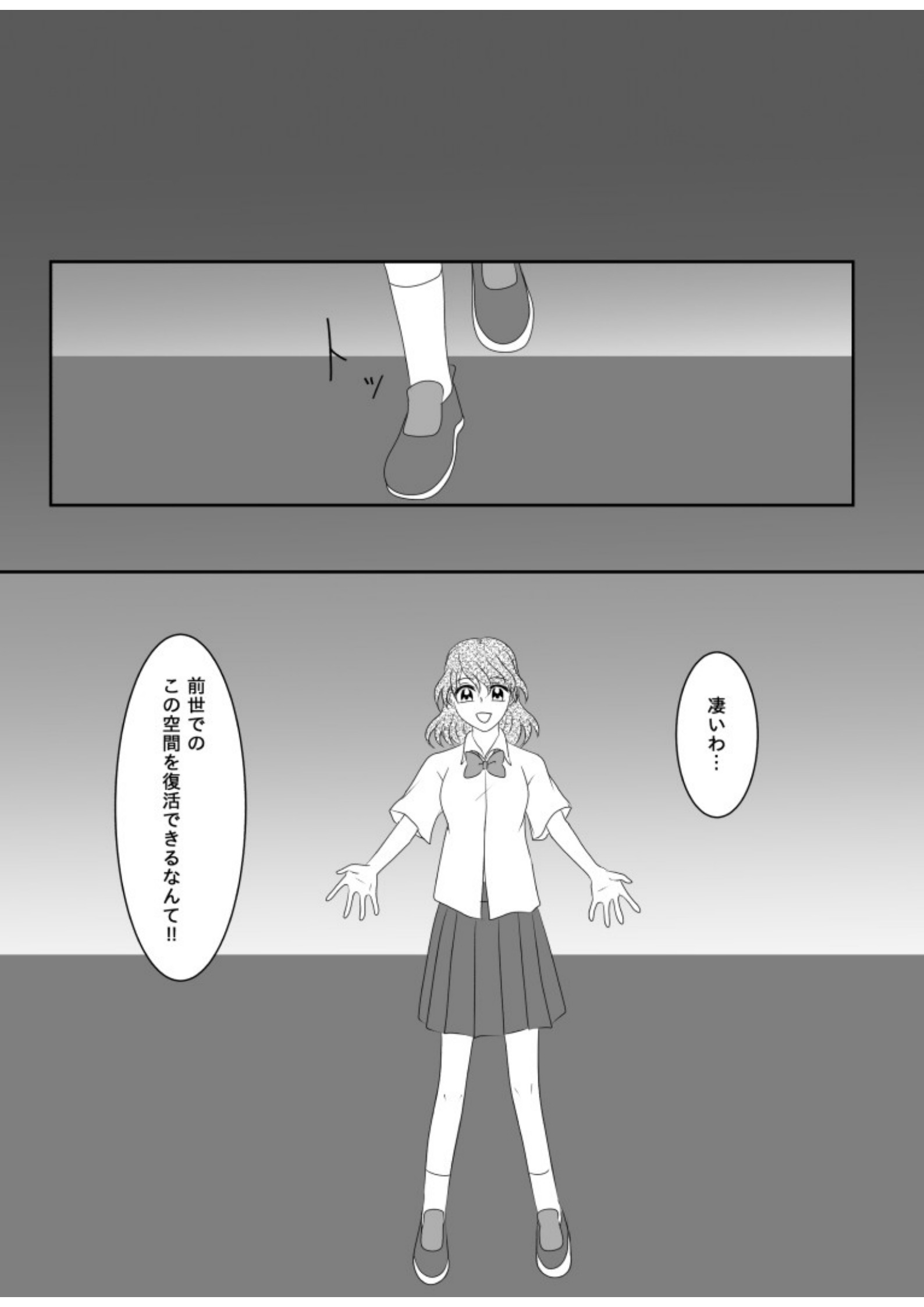

なぁ…
悠理…
キス…しても
良いか？
あ…
私とだけ
キスとセッ●スをするの

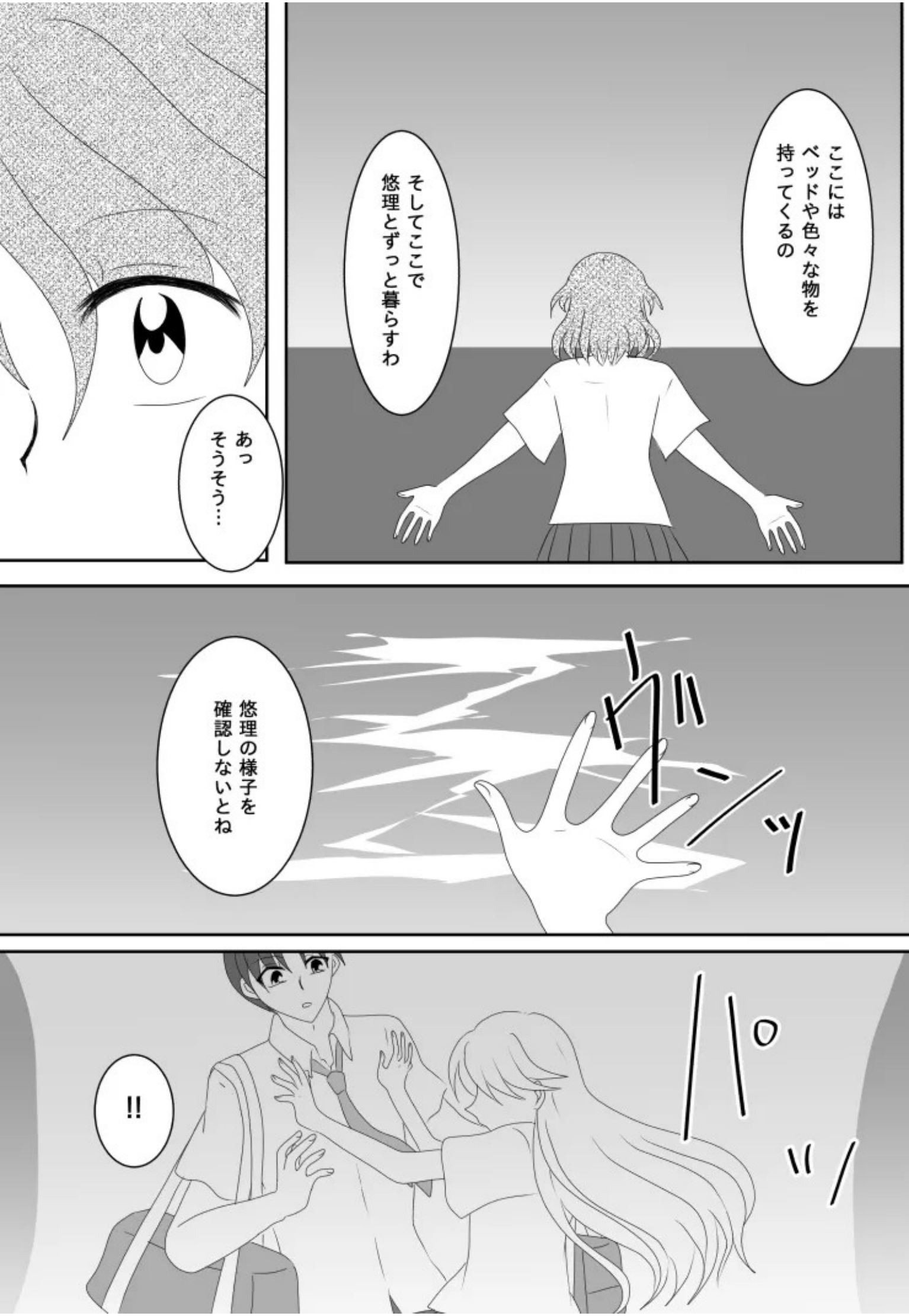

あっ…ごめっ
あのね この間
友達に見られてたから…
ここじゃ
嫌かなって…
ごめん…！
悠理の事を考えるべきだったな…
悪い…！

じゃ…じゃあまた
明日ね！
夏休みの事は
明日決めよう！
部活頑張ってね！
あぁぁ…
気を付けて
帰れよ!!

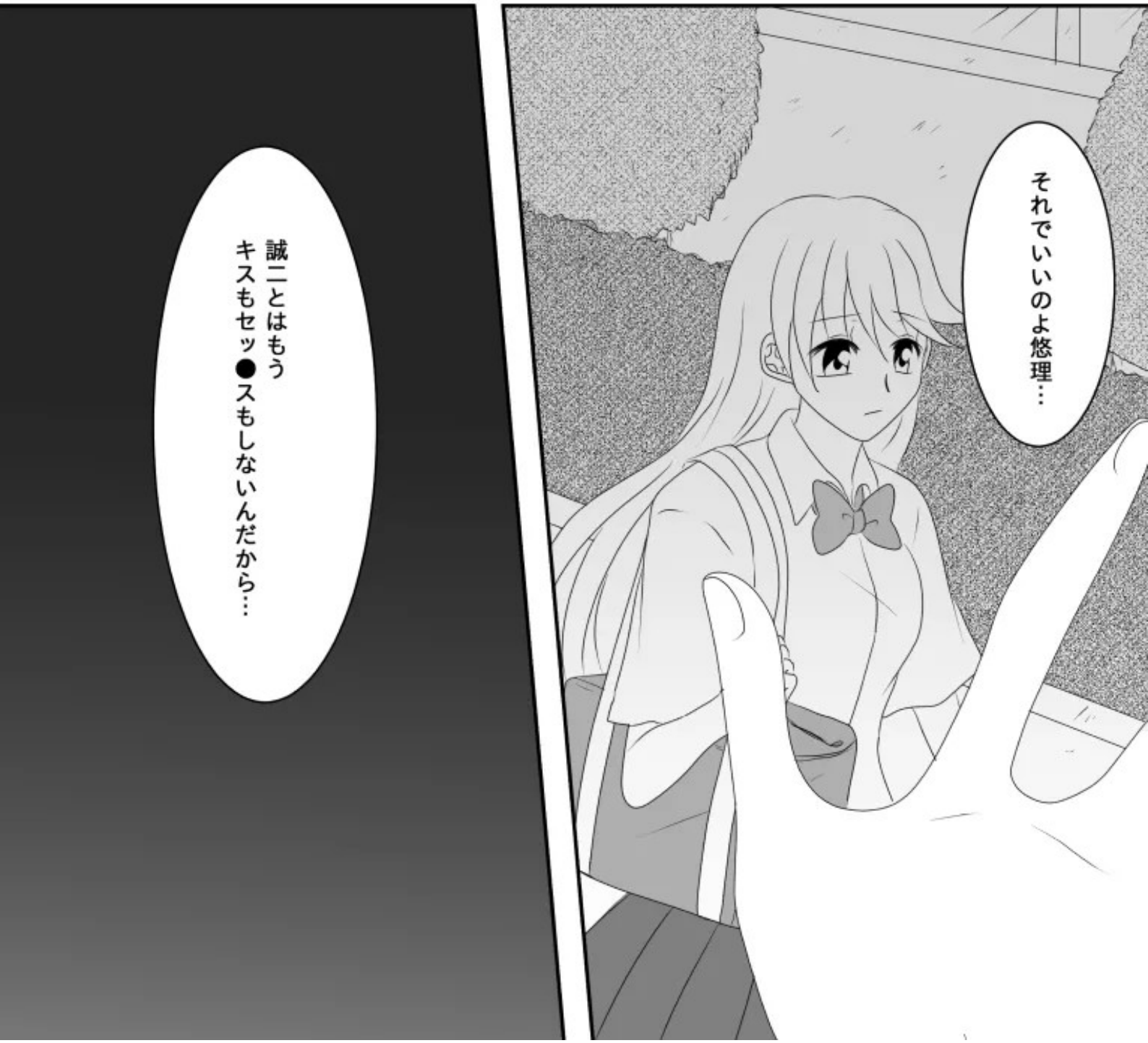
悠理…？



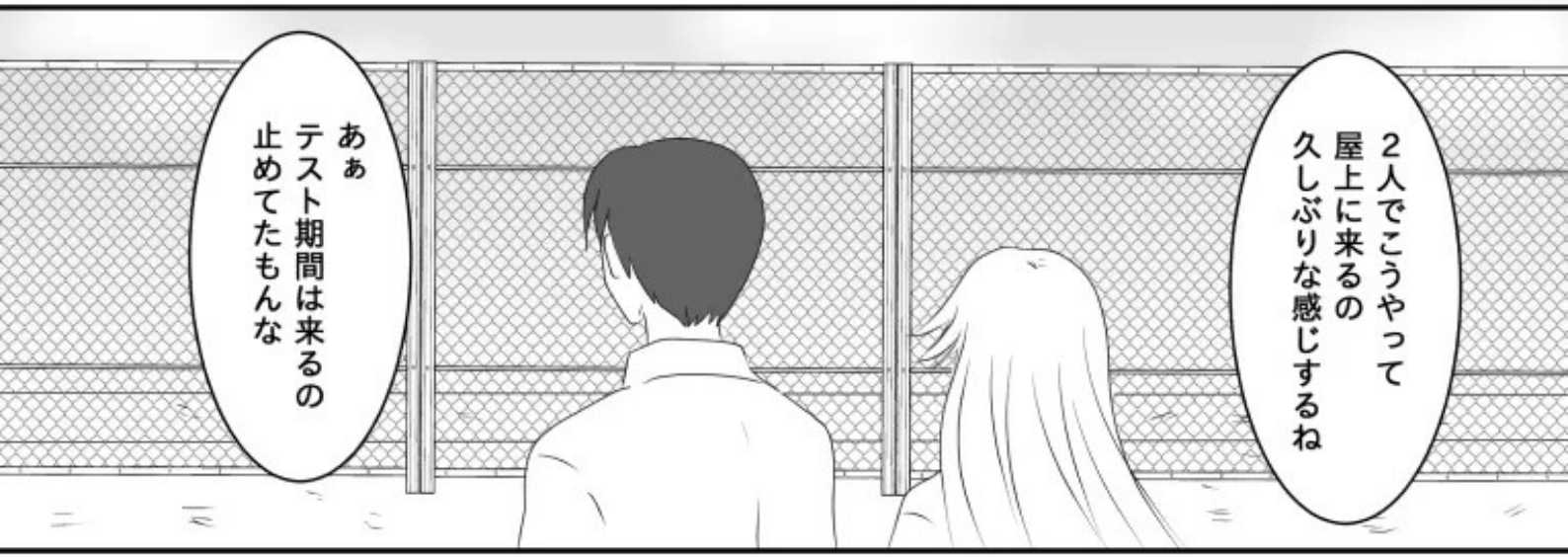

トッ
凄いわ…
前世でのこの空間を復活できるなんて!!


ここには
ベッドや色々な物を
持ってくるの
そしてここで
悠理とずっと暮らすわ
あっ
そうそう…
悠理の様子を
確認しないとね
ガシッ
!!

ふふ…
ちゃんと催眠時にかけた暗示が効いてるみたいね


それでいいのよ悠理…
誠二とはもうキスもセッ●スもしないんだから…

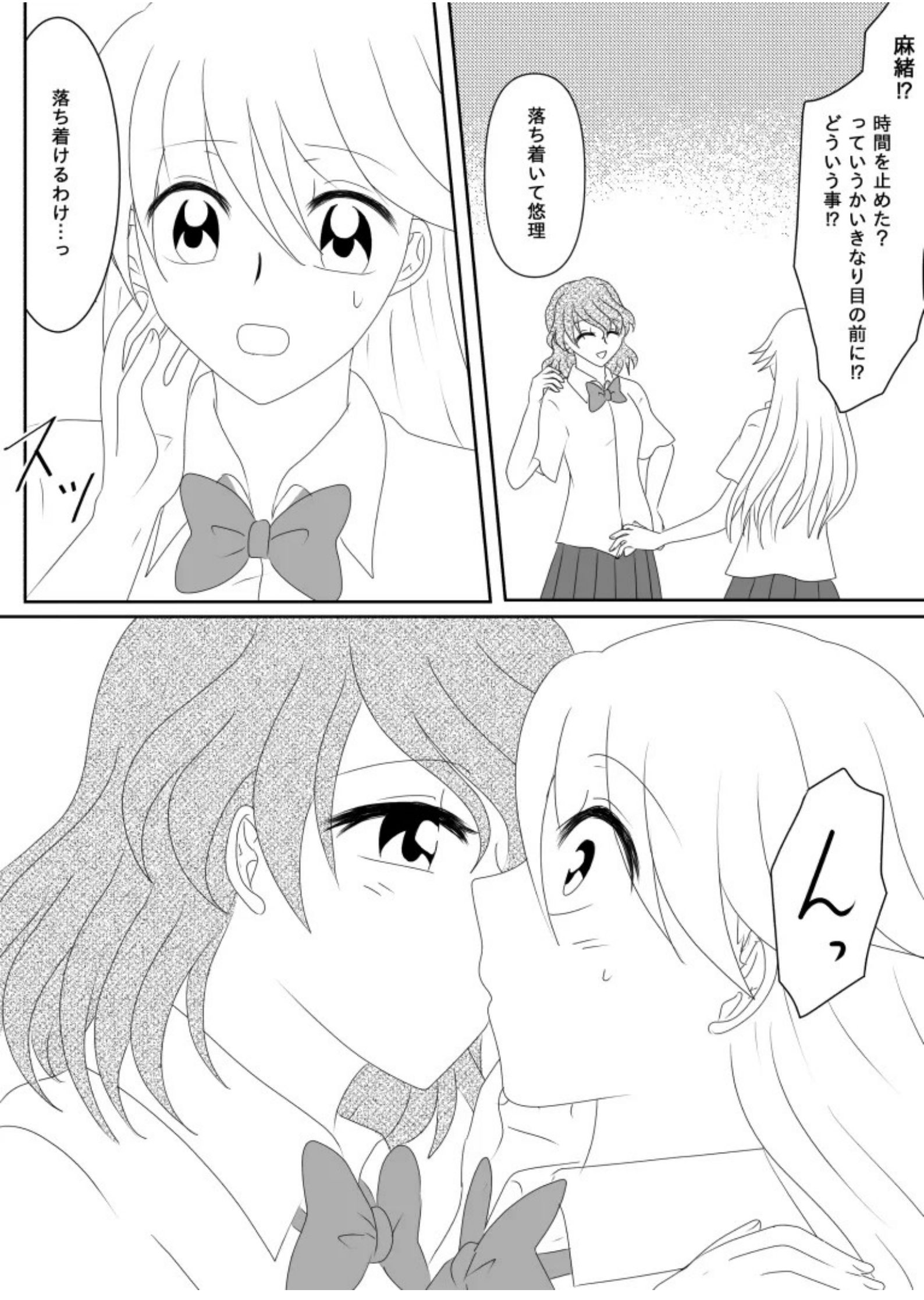
キーンコーンカーンコーン…
いいかお前ら
明日から
夏休みだからって
はしゃぎすぎないように！
先生ー
オレたち小学生
じゃないんだぜ～w

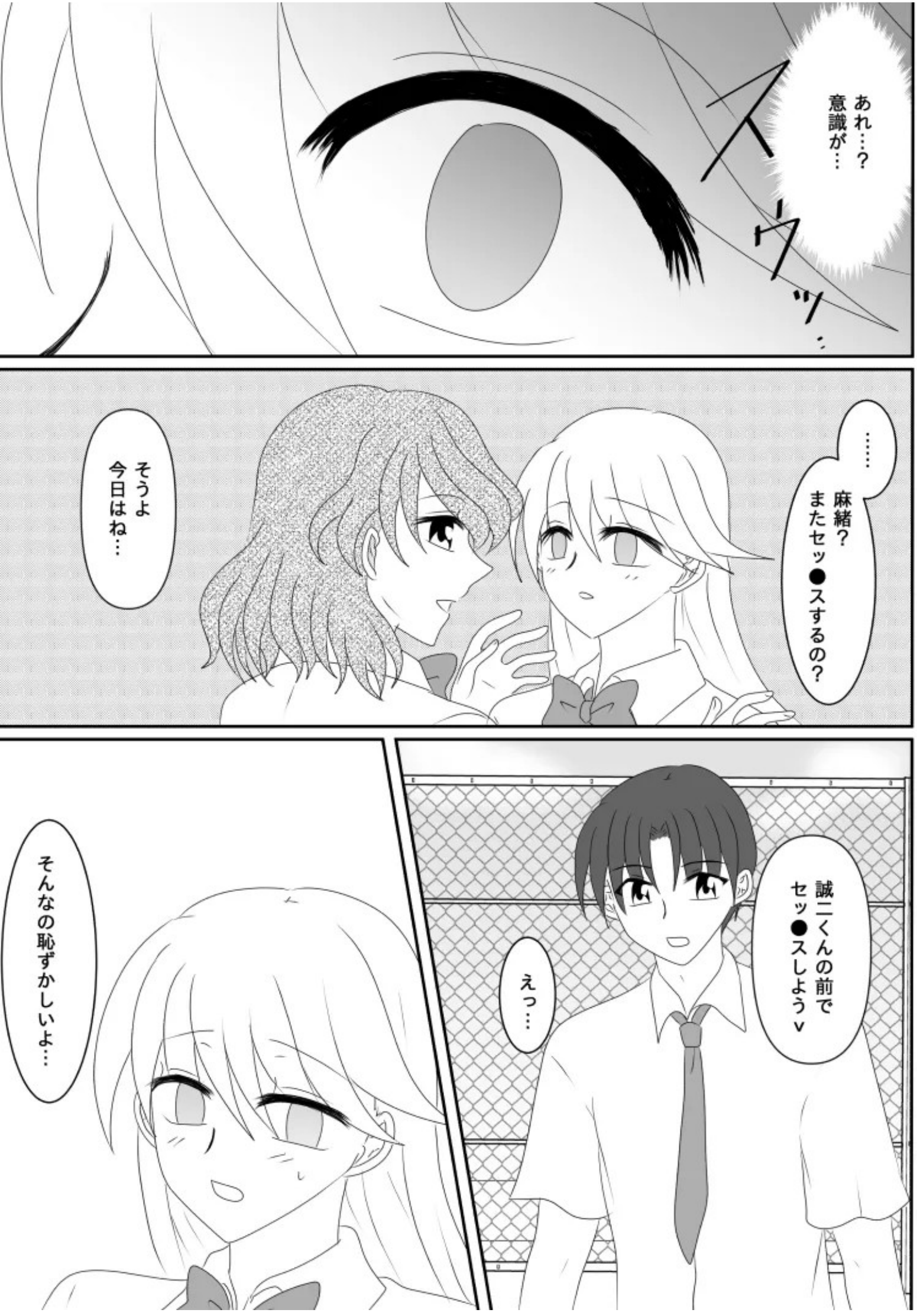

2人でこうやって
屋上に来るの
久しぶりな感じするね
あぁ
テスト期間は来るの
止めてたもんな

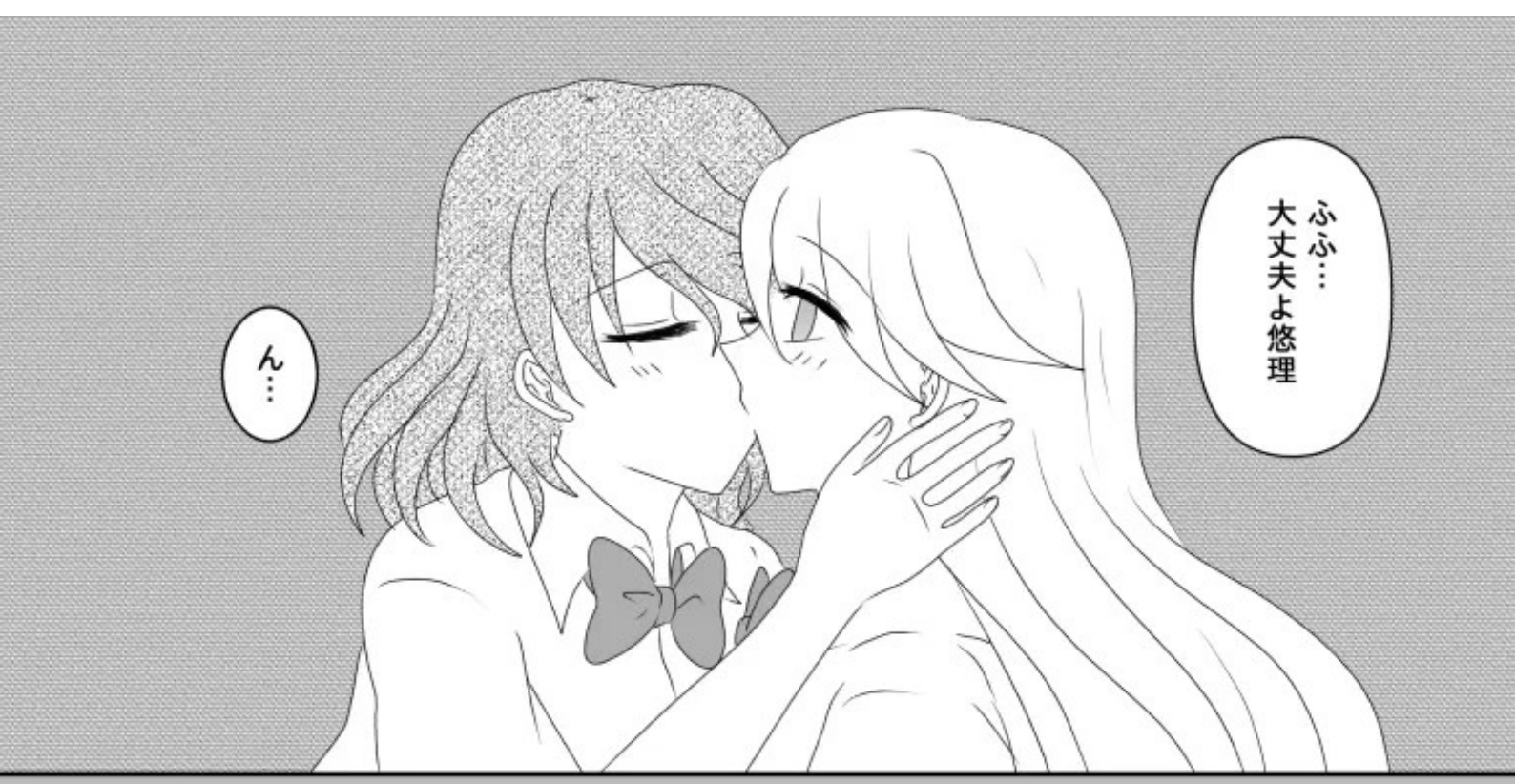
じゃあデートの事
色々決めようよ
なぁ…
その前に話しておきたい事が
あるんだ

あのさ
え？
誠二？
どうしちゃったの？
えっ!?
動きが止まって…いる？

何これ
どうなってるの!?
それはね…
私が時間を止めたからよ
!?
シュンッ

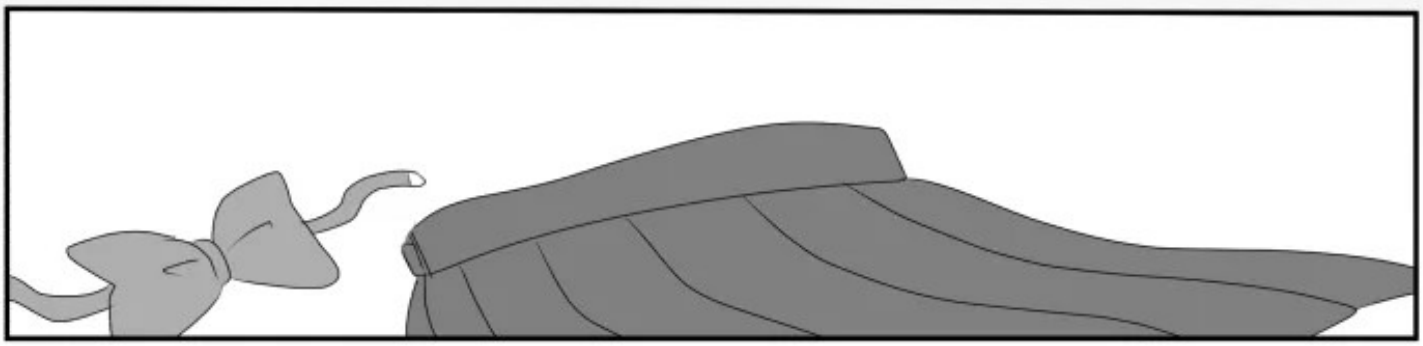

麻緒!?
時間を止めた?
っていうかいきなり目の前に!?
どういう事!?
落ち着いて悠理
落ち着けるわけ…っ
スッ
んっ

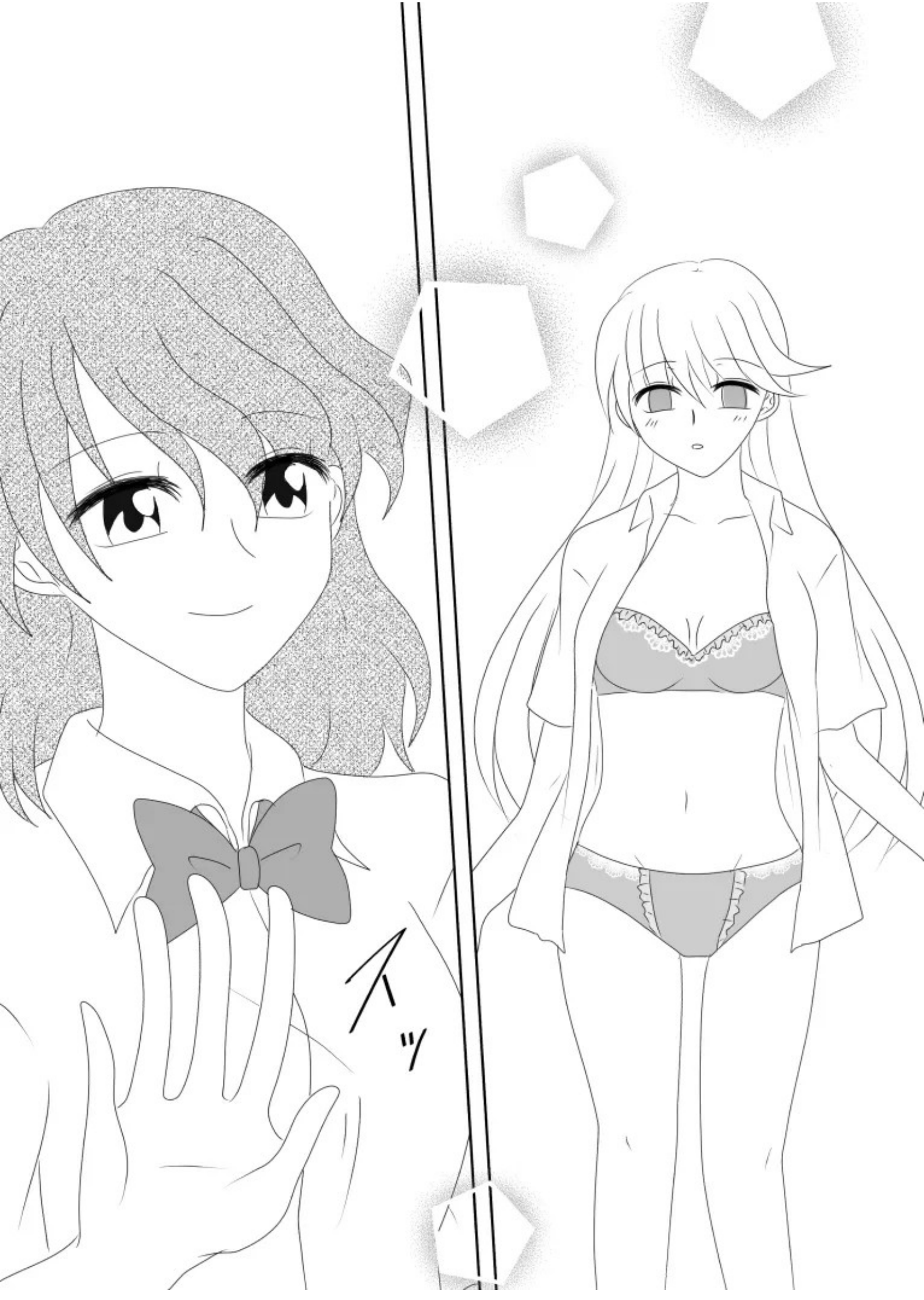

あれ…？
意識が…
ハッ
……
麻緒？
またセッ●スするの？
そうよ
今日はね…
誠二くんの前で
セッ●スしよう♡
えっ…
そんなの恥ずかしいよ…

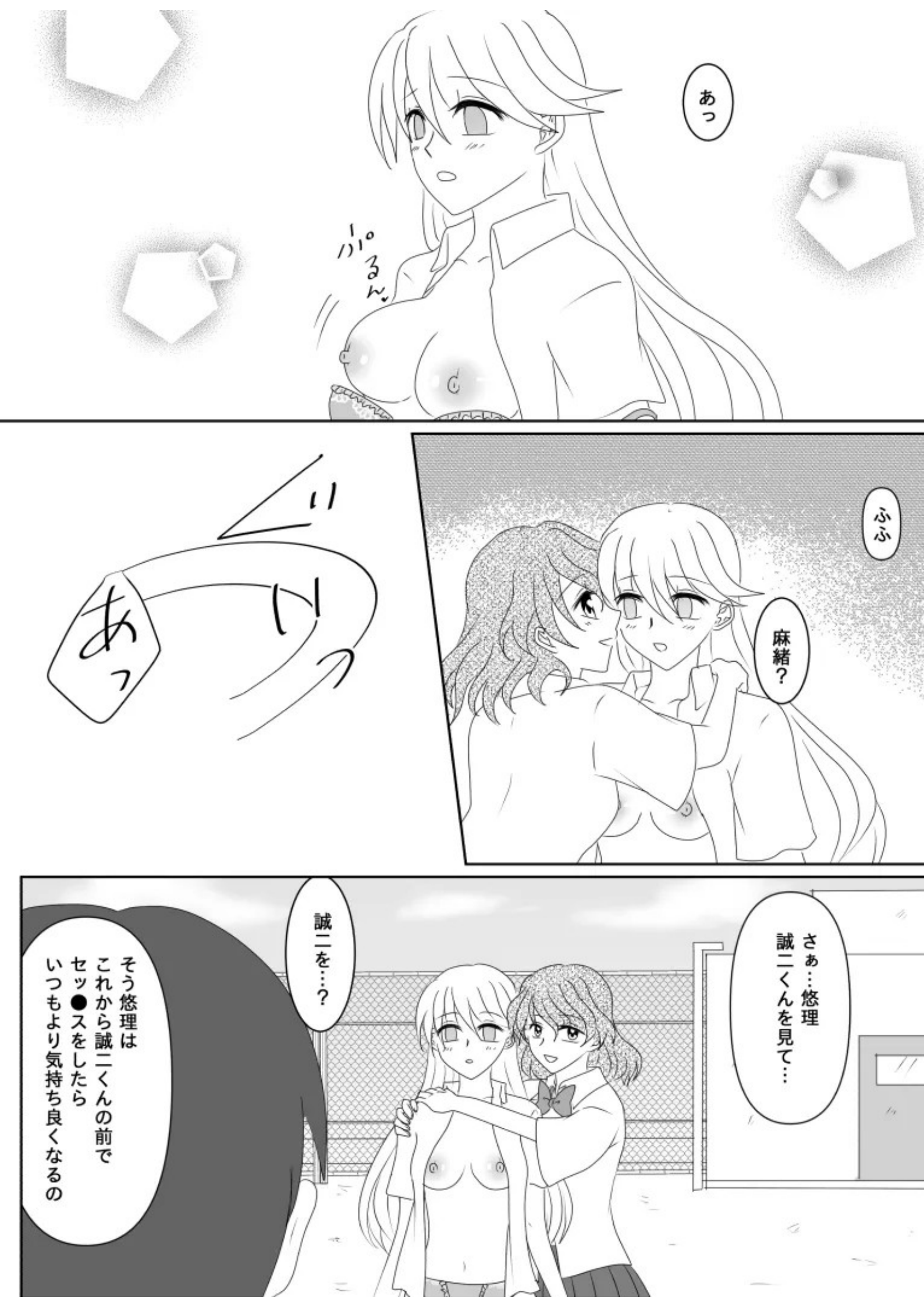


私達以外
みんな時が止まってるんだもの
恥ずかしがる必要ないわ

それに
みんなが気を失ってる場所で
もう私達セッ●スしてるでしょ？




スッ


あっ
ぷるん
ふふ
麻緒？
あっ
さぁ…悠理
誠二くんを見て…
誠二を…？
そう悠理は
これから誠二くんの前で
セッ●スをしたら
いつもより気持ち良くなるの

誠二の前で…セッ●ス…
気持ち良い…
そう
深く心に刻んで…
スッ
あっ
まお…っ
ほら悠理…
いつもより
感じやすいでしょう?

あっ
うん……っ
いつもより
気持ち良い……っ
でしょう？
もっと気持ち良くなろうね
くちゅ
くちゅ
イッ……
あっ
はあっ
はっ
ダメよ嘘ついちゃ
感じてるじゃない
くりくり
むにむに
くちゅ
くちゅ
両方は
だめえっ
くりっ
あんっ

ほら…
中が濡れてる♡
くちゅっ
くちゅ♡
乳首だって
もうこんな♡
むにゅ
むにゅ
くりゅ
くりゅ
ふふっ
指だけでこんなに感じてる
悠理可愛い♡
ねぇイキそう？
くちゅっ♡
びくっ
はぁ、はっ
くちゅっ
うん…っ
もうイキそうっ
イキたい…っ♡
イかせて♡
うん♡
イかせてあげる♡
ぷしゃあっ
あぁあっ♡

ふふっ
悠理ったら
潮吹きするようになったのね
あ…
恥ずかしいから
言わないで…
はぁ…っ
はぁっ

麻緒…
早く貝合わせして
悠理
今日はね
貝合わせじゃないのv
え?

ペニスバンドを使うの

今日から
突いてあげるv
いっぱい気持ち良く
してあげるからね
麻緒…v

さぁ
繋がろう悠理♡
うん♡
ふふ…♡
ふん♡
ふん♡
あっ♡あ
あああんっ
ぬ、ぱっ♡
ばちゅんっ♡
あん!!
入った♡
ぱちゅ♡
ぱちゅ♡
あんっ
あ♡
まって…っ
はやっ

だって悠理が
可愛いんだもの
止まらなくなっちゃうv
あっ
あんっ
ぱちゅ
ぱちゅ
ぱちゅ
あっ
ちくびがっ
ねぇ悠理
これ私の形覚えててねv
次は本物入れるんだからv
ぬぷっ
ぬぷっ
あっ
つんっ
おぼえるっ
ほら
もっと感じてv
誠二くんが見てるよv
あっ
あんっ
ぱちゅ
ぱちゅ
ぱちゅ
せいじの前で
すごい
気持ち良いっ
ふふふv
そうそうその調子v
ぱちゅ

あっ♡あぁっ
まおっイっちゃう♡
はっ
はぁっ
ぱちゅっ♡
ぱちゅん♡
ほんと早いんだから♡
良いよ♡
はぁ
ぱちゅっ♡
ぱちゅっ♡
はい♡
ぱちゅんっ♡
ぱしゅっ
ぴゅっ
ぴゅんっ
あぁあっ♡

あっ、ああっ
すりるっ
あん…っ
すりるん、
ズズ…っ
ふふ…
あと1つ…

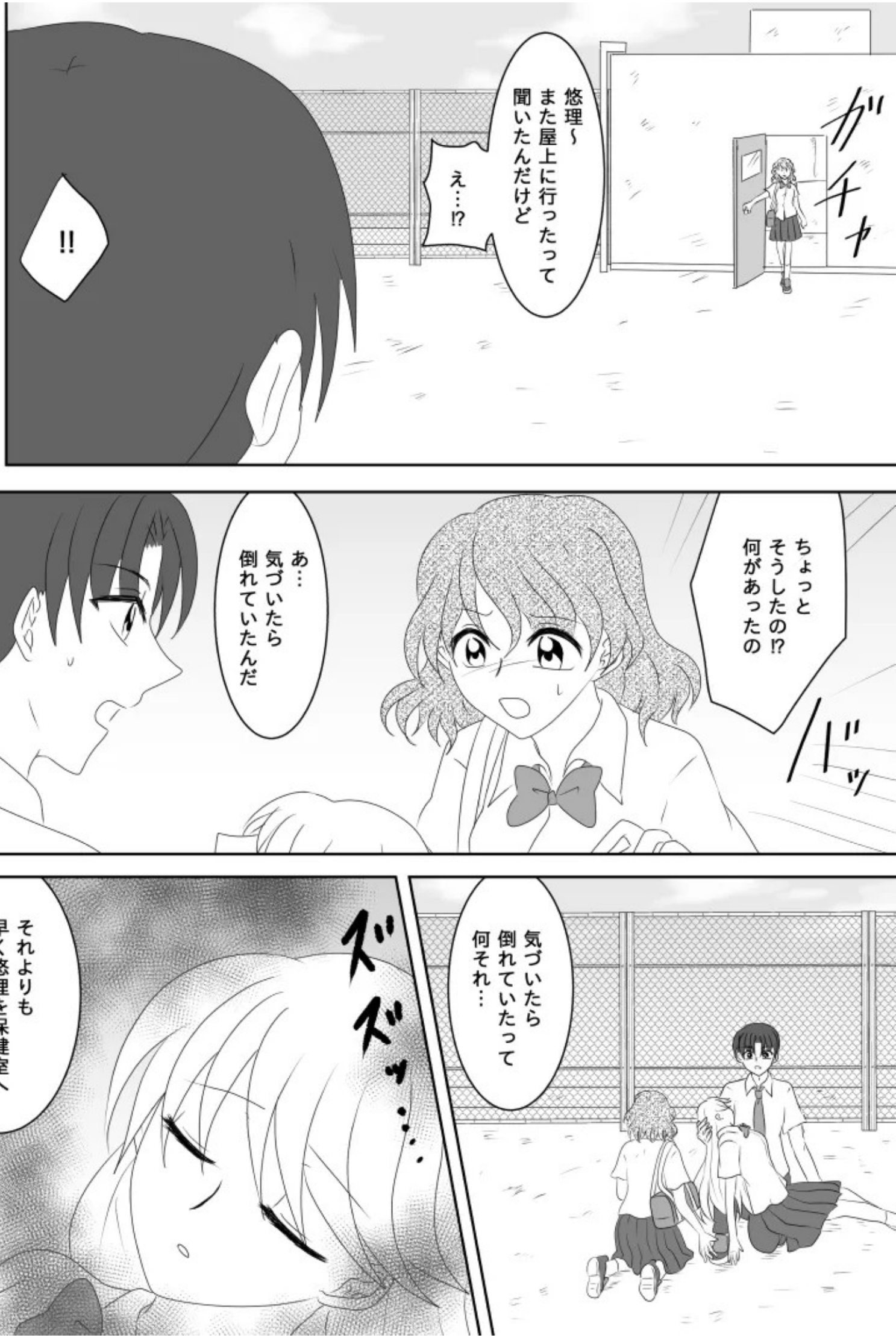
ダメ…
もう立ってられ…ない
どさっ
ちょっと悠理
この後 誠二君を
誤魔かさないと
いけないんだから
しっかりしないと…

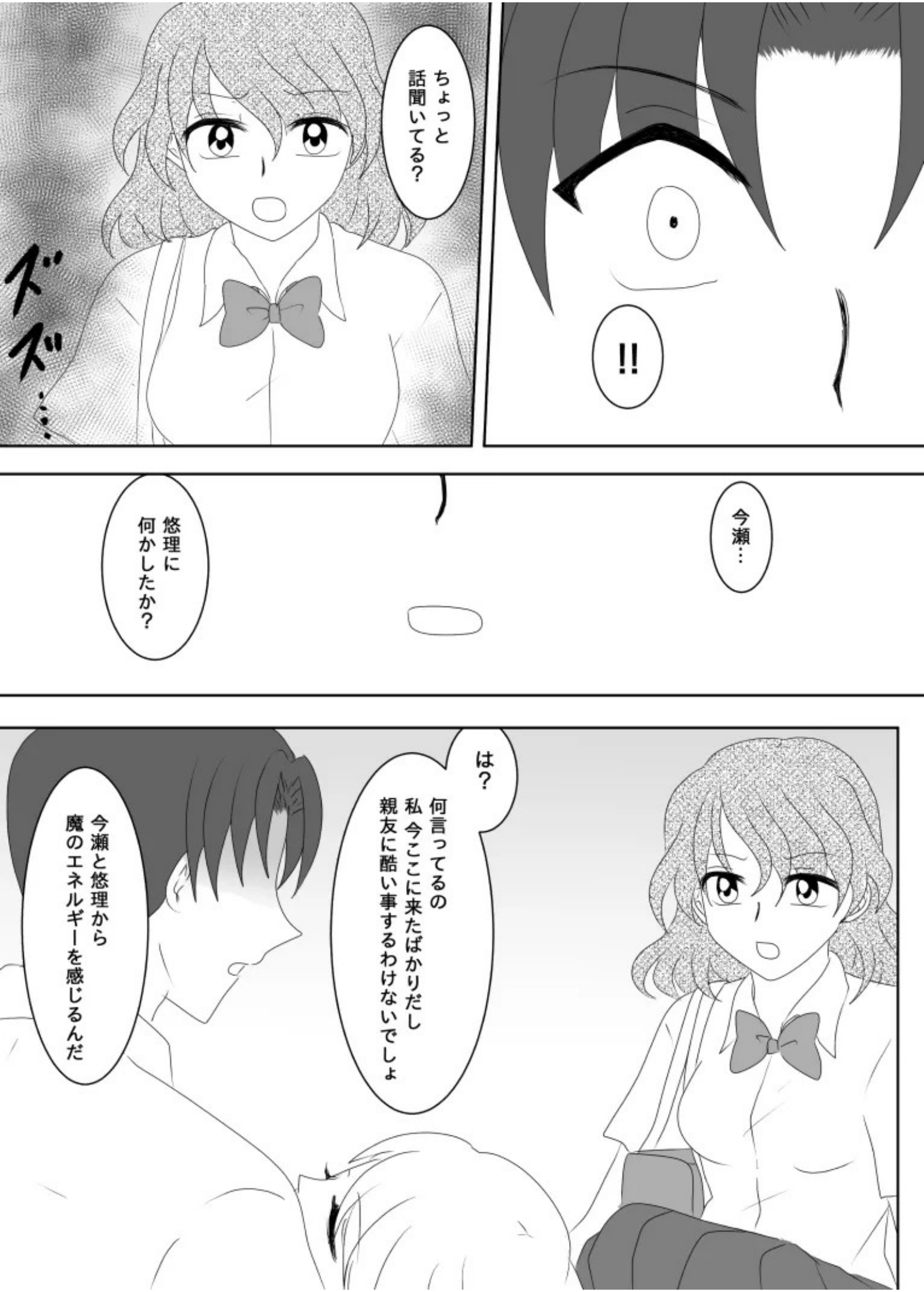
無理だよ…
はぁっ…
はぁっ
あら
それじゃあ…
こうしようか…

パチンッ

あのさ

え？
悠理!?
おい!!
悠理!!
どうしたんだ!!
大丈夫か!?


ガチャ
悠理～
また屋上に行ったって
聞いたんだけど
え…!?
!!
ちょっと
そうしたの!?
何があったの
バッ
あ…
気づいたら
倒れていたんだ
気づいたら
倒れていたって
何それ…
ズズッ…
それよりも
早く悠理を保健室へ
運ばないと!!

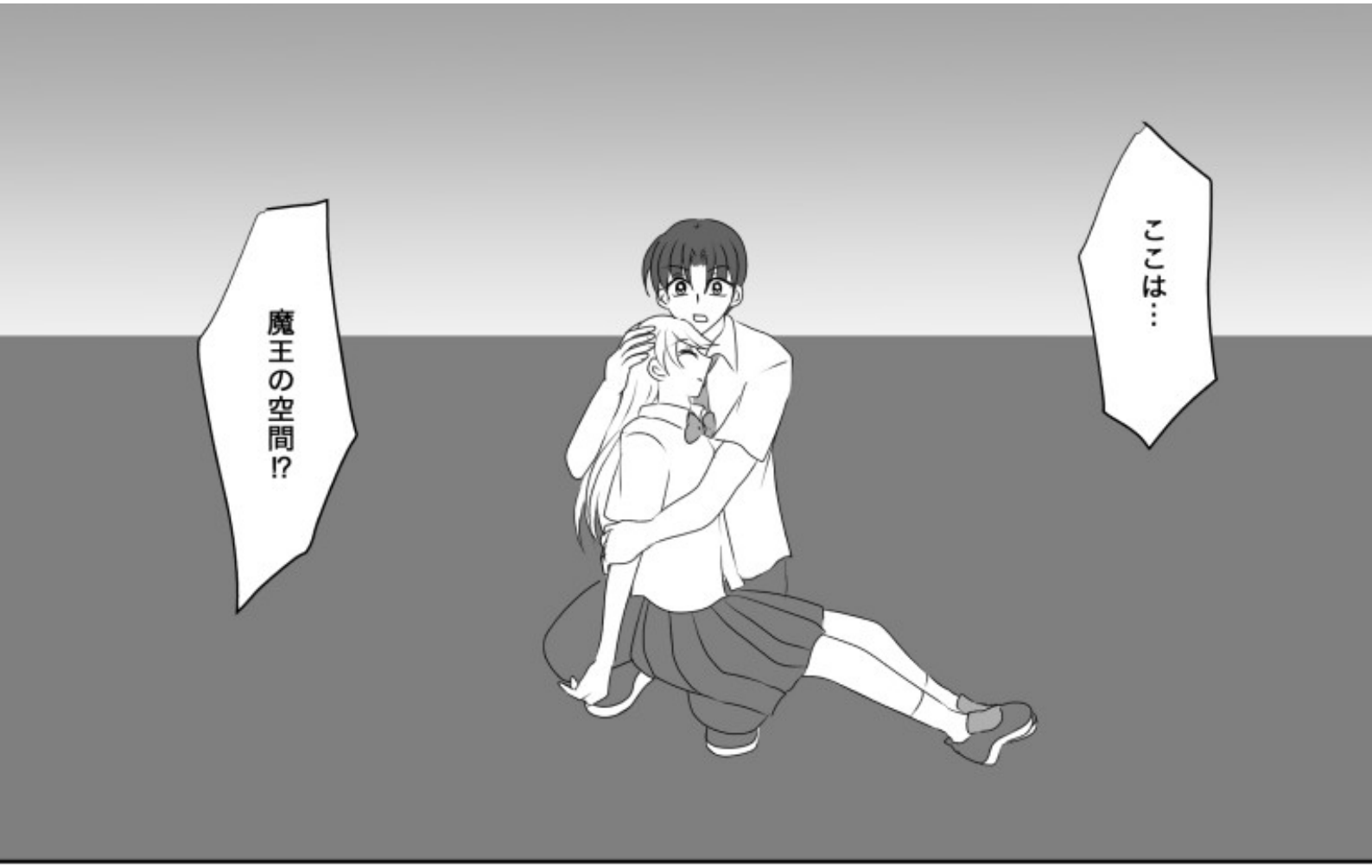

ちょっと
話聞いてる？
ズズ……
!!
今瀬…
悠理に
何かしたか？
は？
何言ってるの
私 今ここに来たばかりだし
親友に酷い事するわけないでしょ
今瀬と悠理から
魔のエネルギーを感じるんだ

なぁ今瀬…
何で君から魔王のエネルギーが
出ているんだ…!?

最終話
『堕ちた神子は魔王と共に生きる』

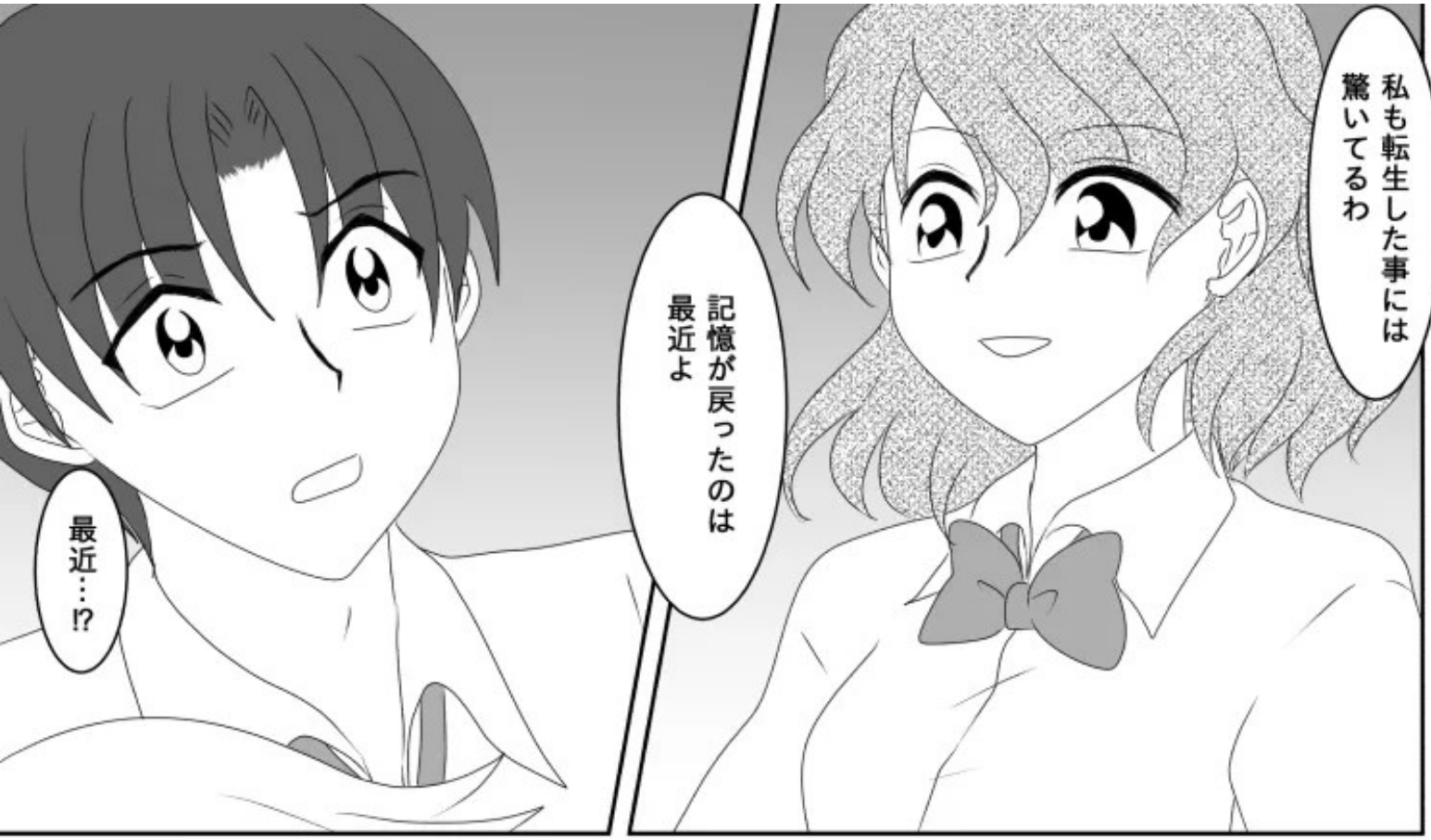
……
今瀬？
ふふふっ…
!!
何にも気づいてない
哀れで馬鹿な奴だと思ってた
魔王のエネルギーを
私から感じる？
それはね…
私が魔王の
生まれ変わりだからよ

今瀬が…
魔王の生まれ変わり!?
信じられない？
なら今すぐその証拠を
見せてあげる
ブワアッ
ハァ
……っ
!?


ここは…
魔王の空間!?

これで信じてもらえた?
本当はアンタを
この空間に
連れてくる計画じゃ
なかったんだけどね…
フフ…

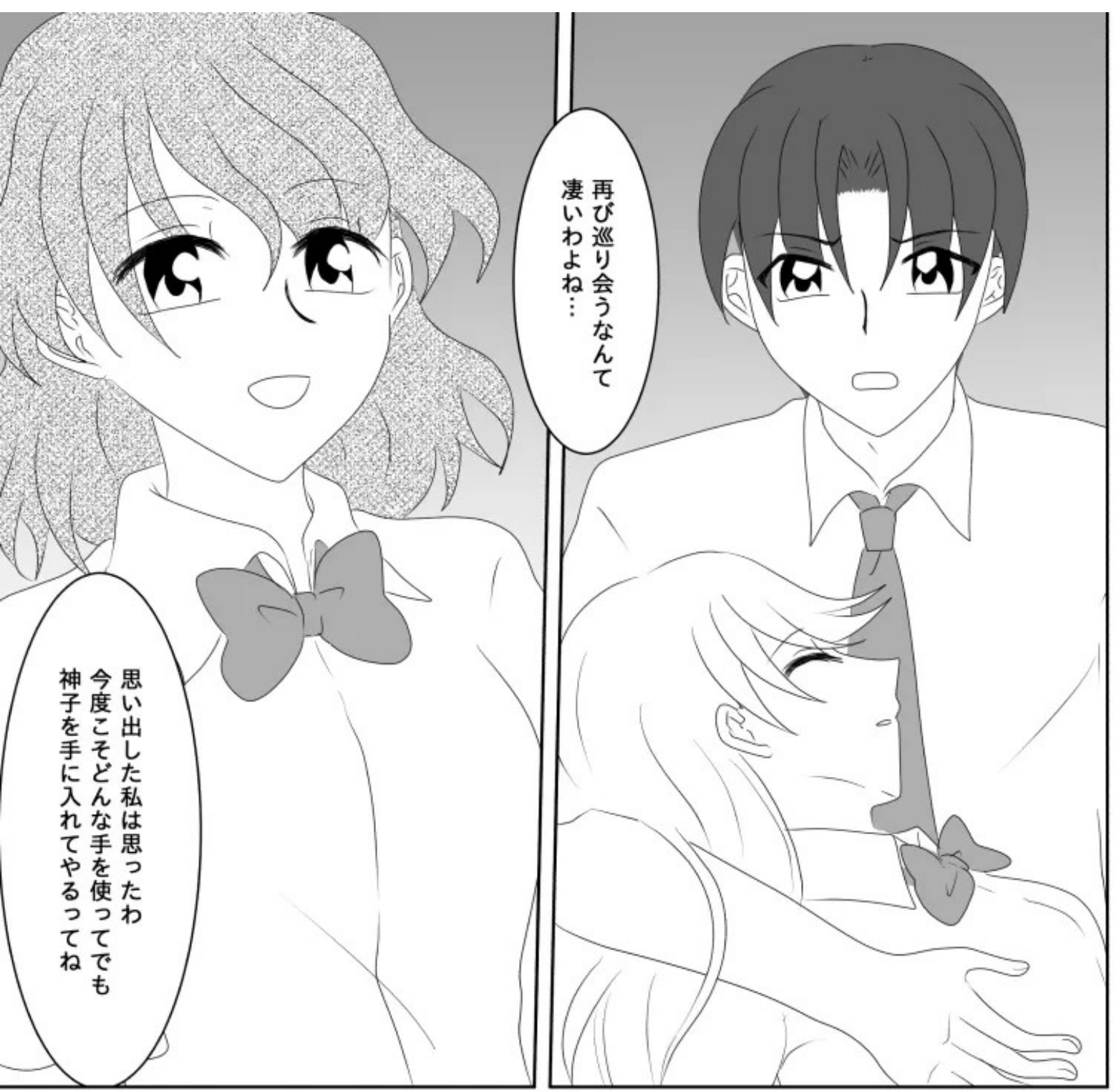
倒した魔王が
俺達のように転生してたなんて
まだ信じられないが…
今瀬…一体いつから?
まさか最初から記憶があって
悠理に近づいてたのか!?


私も転生した事には驚いてるわ
記憶が戻ったのは最近よ
最近…!?

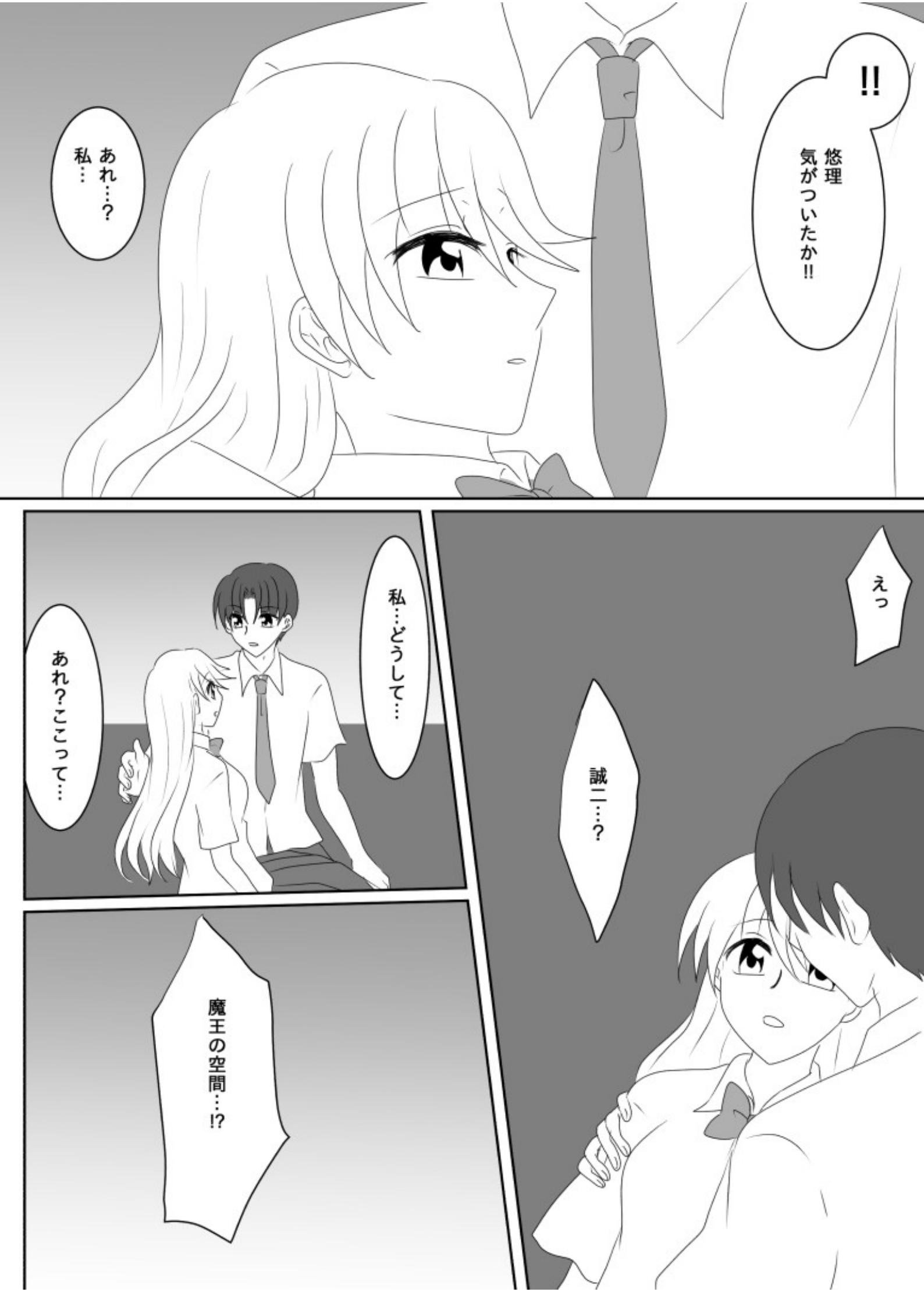
私はね
悠理が好きなの
子供の頃からずっとね
だから
2人が付き合いだしたと聞いた時もショックだったけど…
悠理が幸せなら…って
思うようにしてた…
でも実際キスをしてる所を
見た時悲しくてしょうがなかった

その日よ
私が酷い頭痛に襲われて
前世の記憶を思い出したのは…!

私が神子の力を
手に入れようとしていた事!!
アンタ達が前世から
想い合っていた事!!
アンタ達に
倒された事…!!
全てね!!

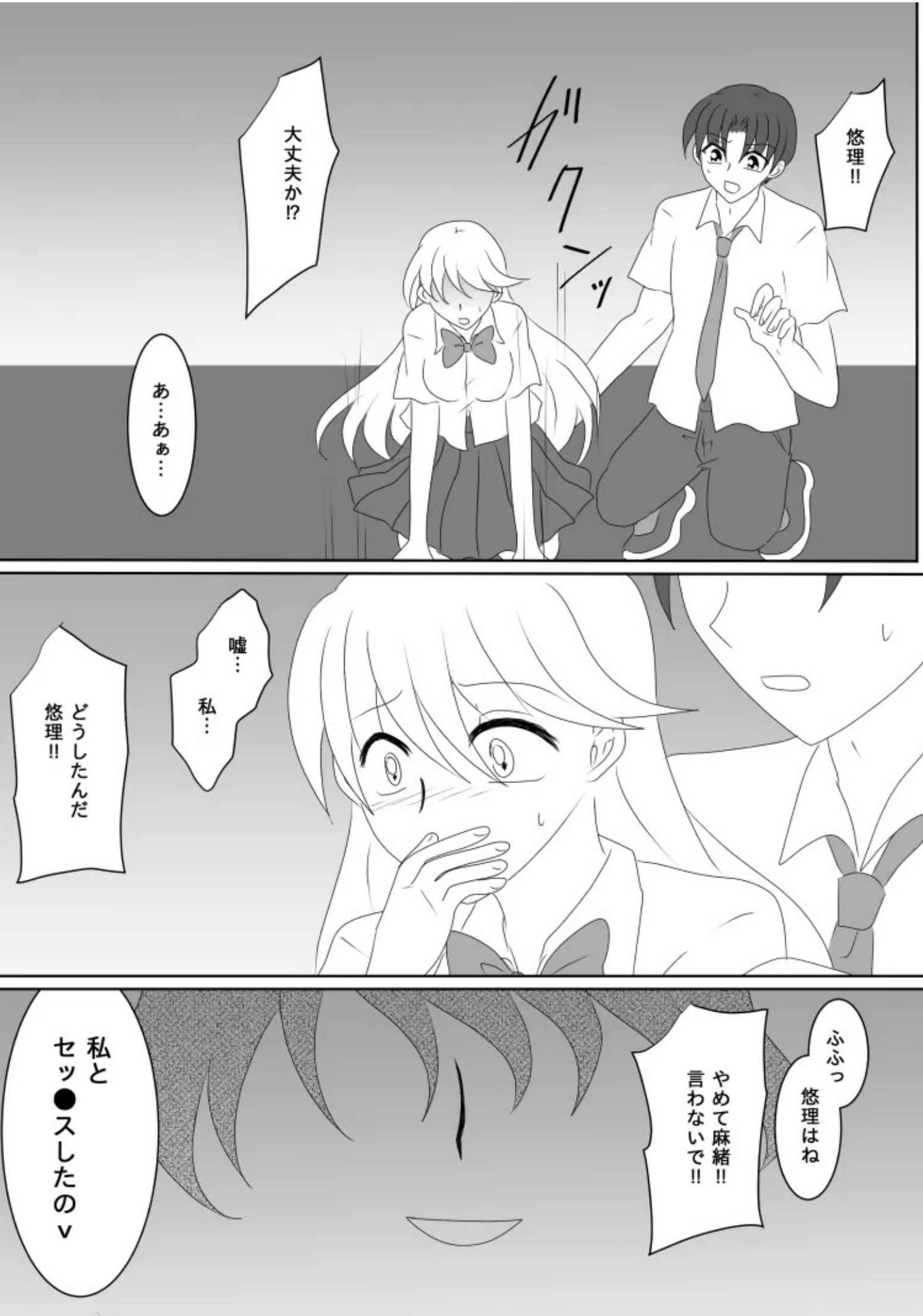

再び巡り会うなんて
凄いわよね…
思い出した私は思ったわ
今度こそどんな手を使ってでも
神子を手に入れてやるってね

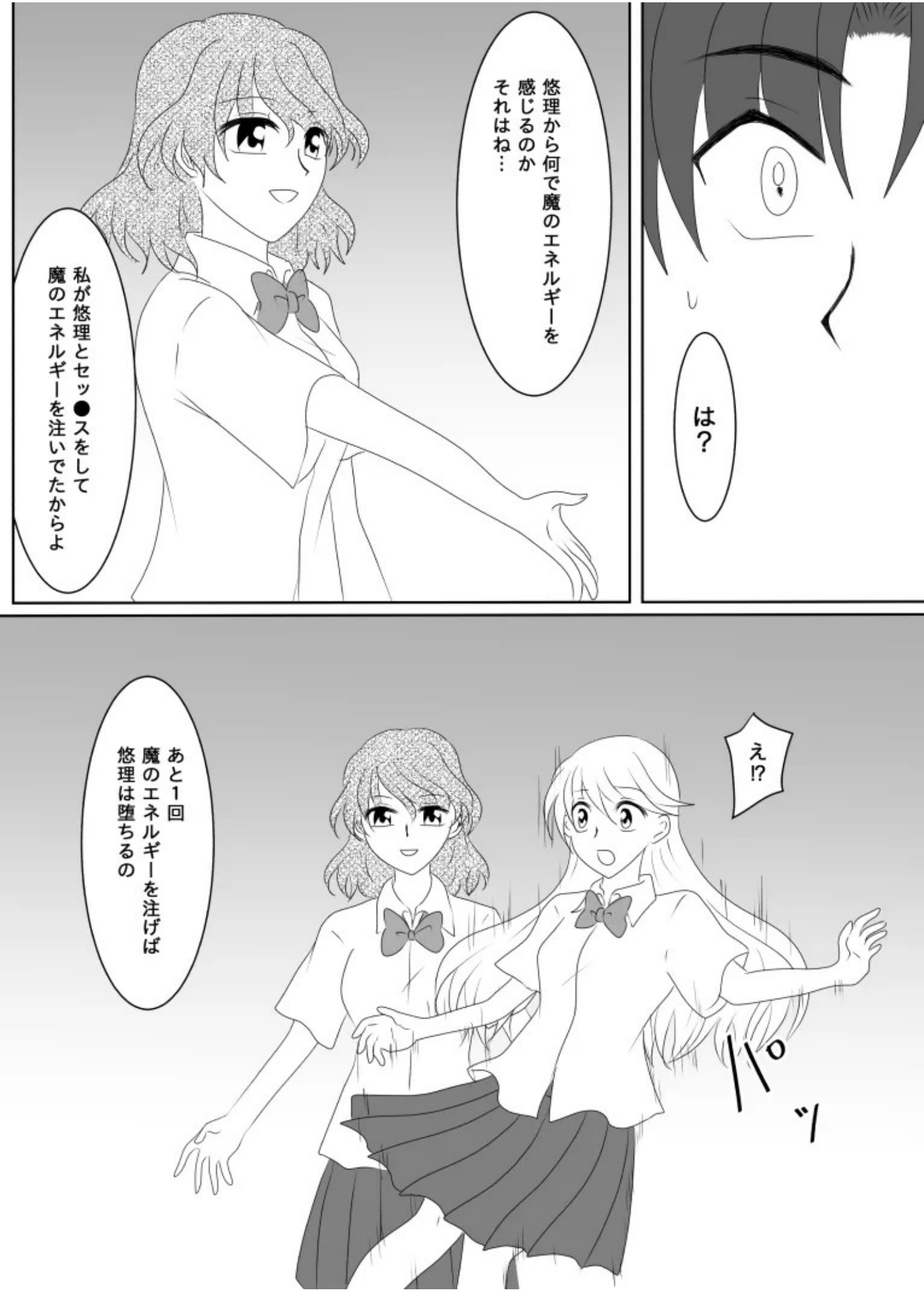
まさか…っ
それで悠理に
魔のエネルギーを!?
う…んぅ…


!!
悠理
気がついたか!!
あれ…?
私…
えっ
誠二…?
私…どうして…
あれ?ここって…
魔王の空間…!?

そう
ここは魔王の空間…
ふふ…
どう?悠理…
懐かしいでしょう?
え…
ま…お?
麻緒?
どうしてここにいるの…?
ダメだ悠理!!
近づくな!!
さぁ悠理
時がきたわよ

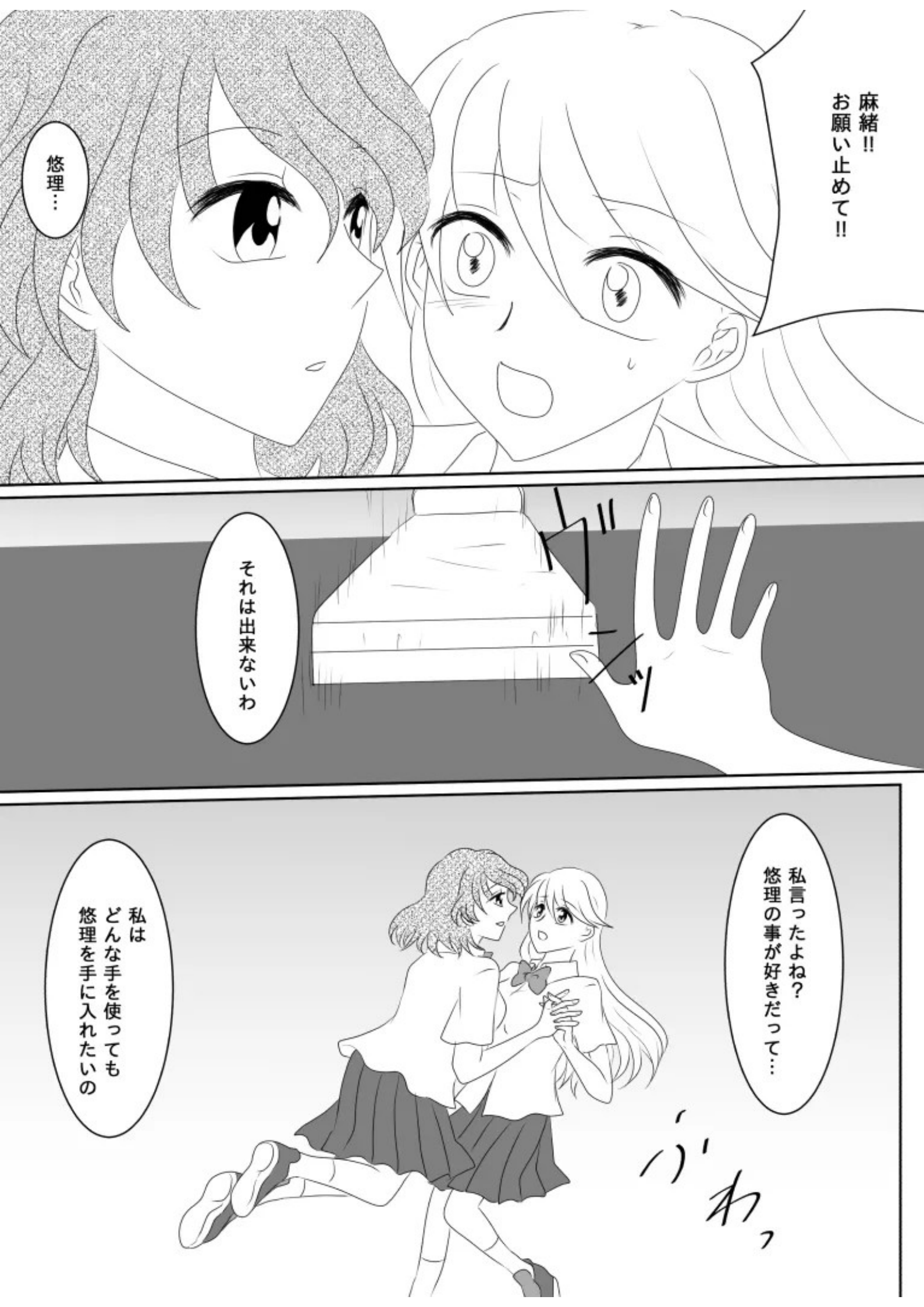
パチンッ
思い出すのよ
ビリ
クーンッ
あ
あっ!?
悠理!!


悠理!!
大丈夫か!?
ガクンッ
あ…あぁ…
嘘…
私…
どうしたんだ
悠理!!
ふふっ
悠理はね
やめて麻緒!!
言わないで!!
私と
セッ●スしたのv


は？
悠理から何で魔のエネルギーを感じるのかそれはね…
私が悠理とセッ●スをして魔のエネルギーを注いでたからよ
え!?
あと1回魔のエネルギーを注げば悠理は堕ちるの
ﾊﾟｯ

目の前で見せてあげる
悠理と私がセッ●スをする所を！
悠理が堕ちる所を！
麻緒…!!
悠理!!

なっ!?
っ!!
何だ!?
声が出せない…!?
そこで大人しく見てるのね
せいじっ!!


麻緒!!
お願い止めて!!
悠理…
それは出来ないわ
私言ったよね?
悠理の事が好きだって…
私は
どんな手を使っても
悠理を手に入れたいの

麻緒…
え？
体が動かない…っ
すぐに誠二くんの事なんて
気にならないようにしてあげる
んうっ

…っ
くそ!!
早く悠理を助けないと…!!
んぅ
ちゅっくちゅっ
んっ
ぷはっ
ふふっ
催眠にかかってない状態で
私とキスしてどう思った?
気持ち良いでしょう?
はぁっ
はぁっ
な…なんで
こんなに
感じちゃうの…

はっ
感じるのって
催眠にかかってた時に
キスしていただけじゃなくて
さっき屋上で誠二の前でする事に
快感を覚えさせられたせい…？
誠二に見られてるから？
正解♡
パチン
ブワアッ…
きゃっ!?

あぁっ!?
服が…!!
さっきと違って
誠二くんはちゃんと見てるから
余計感じやすいかもねv

くちゅっ
びくんっ
ひゃっ♡
さっき
屋上でシたから
慣らさなくても
良いんだけど
一応ね♡
指でまたイっておこうね♡
くちゅ♡
むに♡
あっ♡
あんっ♡
やめ
くちゅ♡
まおっ
あぁん♡
…っ!!
屋上…!?
悠理が倒れてたのは
まさか…!?
クソ!!動け俺の体!!
ビクッ
ツイッ

バリッ!?
バリッ
バチッ
……っ
バチッ
無理に動こうとすると
電流が流れるようになってるの
言ったでしょう?
大人しく見てろって
せーいじっ!?
あぁ…

さぁ悠理
再開するわよ
くちゅっ
くちゅっ
ひゃあっ♡
くちゅっ
むにゅっ
くちゅっ
くちゅっ
あっ♡
はあっ
はあっ
まっ…まおっ
ふふっ
くちゅっ
くちゅっ
やっぱり
もうイっちゃう？
くちゅっ
じゃあ今度はちゃんと
誠二くんに見てもらわないとね♡
イくところ♡
あぁっ♡
だめぇっ
くちゅっ
くちゅっ
くちゅっ
くちゅっ
だめっ
イくっ♡イっちゃう
ほら
イって♡悠理♡

イくぅっ
あぁあ～
パンパンっ
っ!!
悠理…!!
ふふ…
ペろっ

クッ
くそ!!
くそ!!
バチッ
バリバリッ
ァ!!!
はあっ…
誠二…
だめ…
はぁっ
はぁっ
あぁ…
とろぉ…
バチッ
バチッ
このままじゃ…
誠二が…

悠理
まだ終わってないんだからね
グイッ
きゃっ
屋上でセッ●スした時に
言った通り…
あ…
あぁ…
今から
ち●こ生やして
悠理の中に入れるからねv
とろぉ…

ヴ
ン…
あ…

よいしょ♡
あっ!?
繋がろう♡
いっぱい突いてあげる♡
やめろ!!
止めてくれ!!
ぬ、ぬぷっ♡
ひゃっ

あっまおだめっやめっ
くちゅっ
ぬぱうっ
あうっはいってるっ
だめ…っせいじっ見ない…でっ
ダメよ見てもらわなきゃ
はぢゅん♡
あぁっ!?

ゆうりぃ!!
!!!
ぎゅうう♡
すごい…
悠理の中あたたかくて
締め付けてくるv
あっ…あぁっ…

あぁ…
やっと悠理の中に入れたんだ…♡
すり、
目の前で
悠理にち●こ入れられるって
どんな気持ち？
あっ…
ふ
あんっ
悠理
気持ち良い？
あぁっ
私はとても気持ち良い♡
まおっ
だめえっ
気持ち良くなって
私の事だけ考えて♡
あっ
あぁ…
ぬぱっ
くちゅ
ぬぱっ
くちゅ

何で…
こんな事になったんだっけ…
麻緒が私達が倒した魔王の
生まれ変わりって言われて…
あの日に
私は催眠をかけられて…
何度も
麻緒とセッ●スをしていた…
目の前で誠二が
私を助けようとしてくれてるのに…っ
苦しんでいるのに…っ

あっ
あっ
麻緒とセッ●スしていた事が
体にしみついていて
あっ
あぁんっ
麻緒の事しか考えられなく
なっていく…っ
ぬぷっ
ぬぷっ
バリッ
バリッ
ーっ
まおっ
まおっ
ふふ…
ねぇ悠理…
今何を考えてる？
えっ？
まおとセッ●スすごい気持ち良い…♡

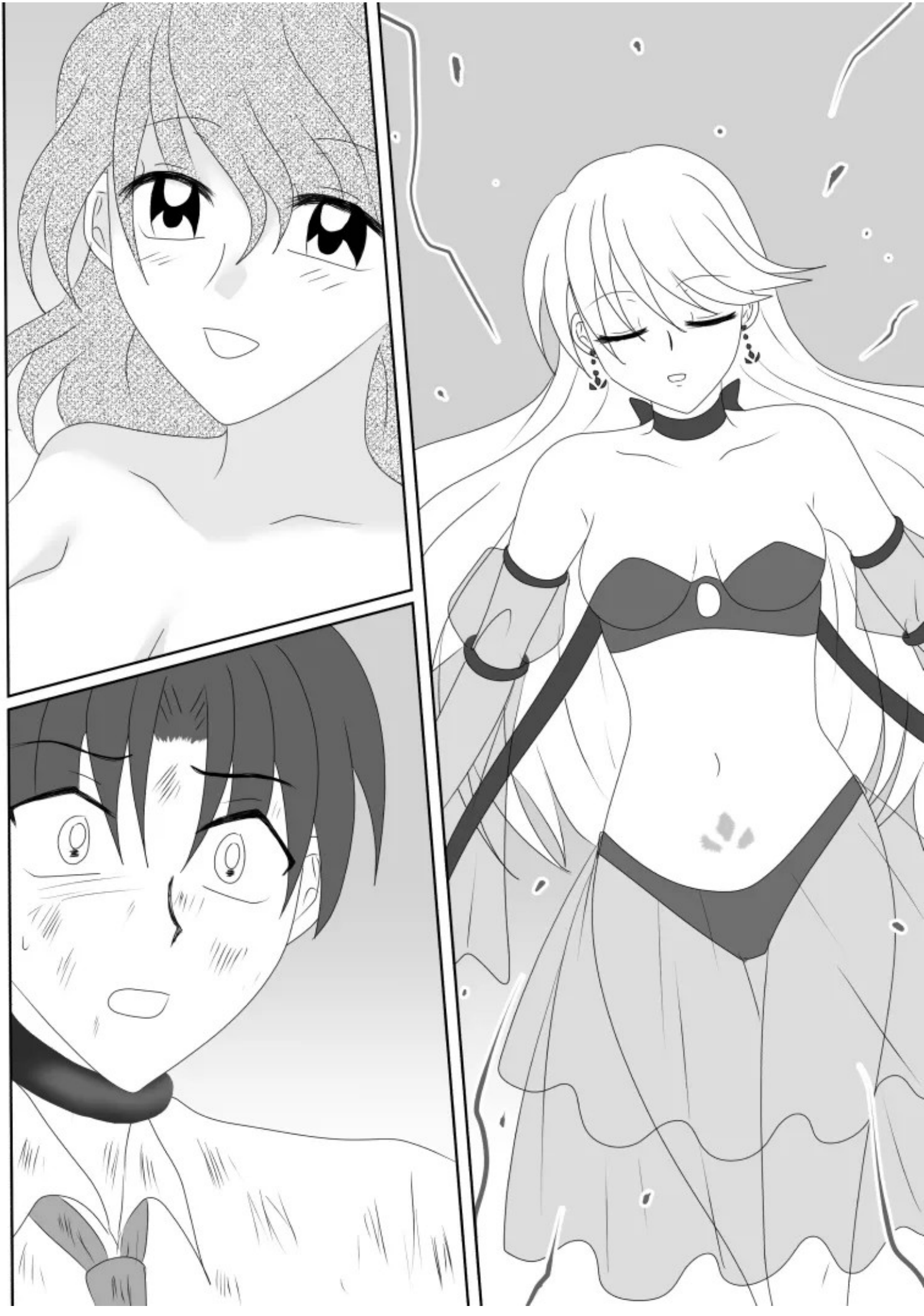
誠二くんとセッ●スした時より気持ち良いでしょう？
とん♡ とん♡
ぬぷっ♡
ぬぷっ
はぁっ…
うん♡ 生でするとやっぱりちがうね
やめてくれ!!悠理にそんな言葉を言わせるな…っ!!
まお…っ 私っもうイっちゃう♡
私もイきそう…♡
誠二くんの前で中出ししてあげるね♡
うんっ出して♡
ぬぷっ
ぬぷっ♡

やめてくれぇえ!!
あぁあーっ♥
あっ♡
あっ♡
ぬぱっ♡
イくっ♡
イくっ♡
ぬぱっ♡

ズズ…
あっ…あぁ…
どくどく
はぁっはっ
悠理…
中に出せたv
ちゅぽっ
ひゃっv
お疲れ様
悠理v
…っ
ふふ…
これでもう
悠理は堕ちた…

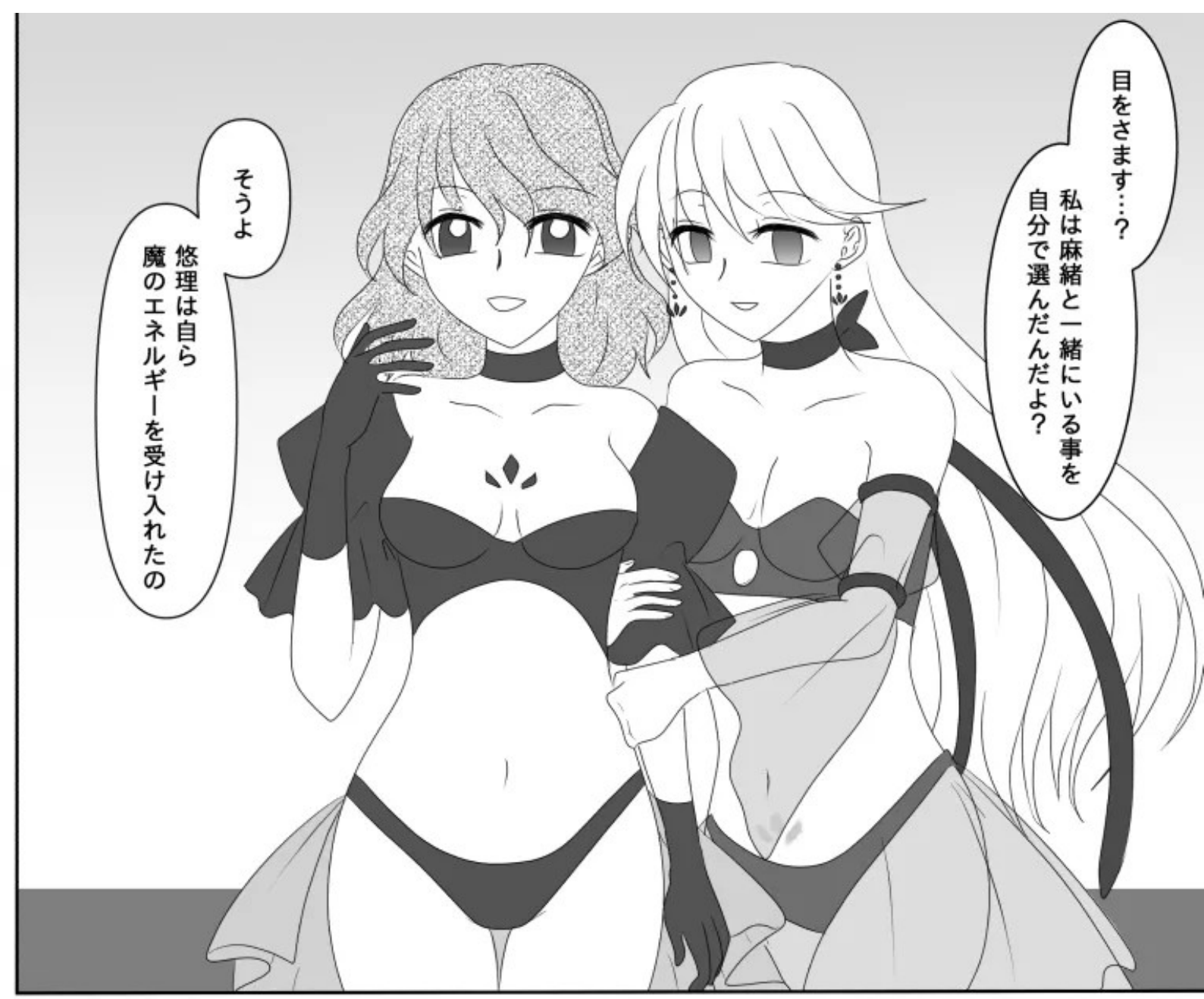
ウッ
ッ
っ!?
あっ!?
ドクン
悠理好きよ…♡
うん…
悠理…私とずっと一緒にいてくれる…?
うん…
バチッ
バチッ

麻緒とずっと
一緒にいる…
スウッ
ゆうりぃいいい!!
ハッチッ
麻緒と一緒にいる為に…
ハッチッ
ふさわしい恰好にならなきゃ…
ハッチッ

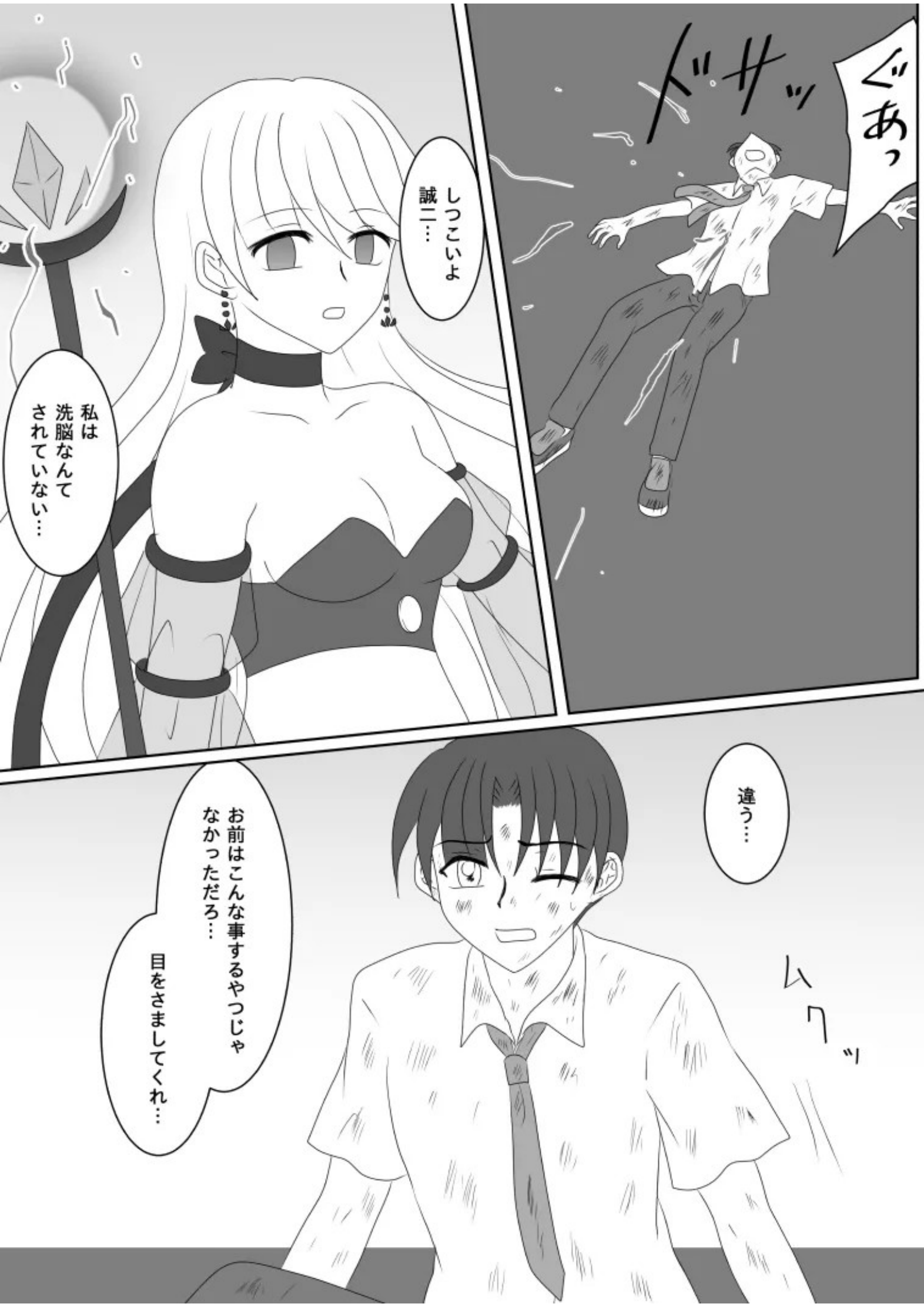


麻緒…!!
悠理♡
その恰好
よく似合ってる♡
ほんと?
麻緒にそう言って
もらえて嬉しいな…♡
それじゃあ
私も悠理にふさわしい
恰好にならないとね…
ブファッ

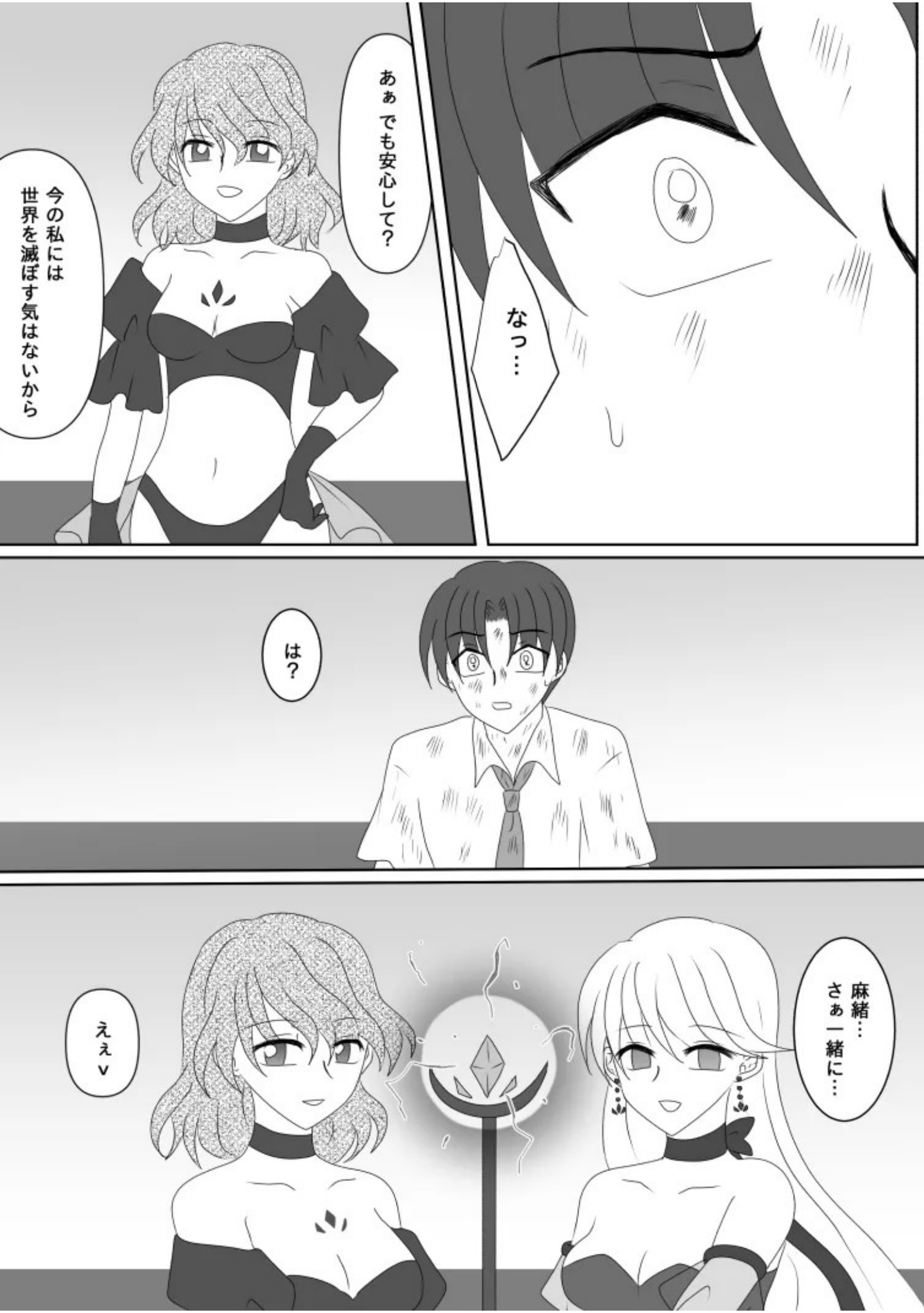
もういいわよ
パチンッ
!!
ガクンッ
うわっ
ドサッ
声が……!!
悠理…!!
目をさましてくれ…!!


目をさます…？
私は麻緒と一緒にいる事を
自分で選んだんだよ？
そうよ
悠理は自ら
魔のエネルギーを受け入れたの

違う!!
お前がさっきセッ●スをして
悠理を洗脳したんだろ!!


ぐあっ
ズサッ
しつこいよ誠二…
私は洗脳なんてされていない…
違う…
お前はこんな事するやつじゃなかっただろ…
目をさましてくれ…
ハァハァ

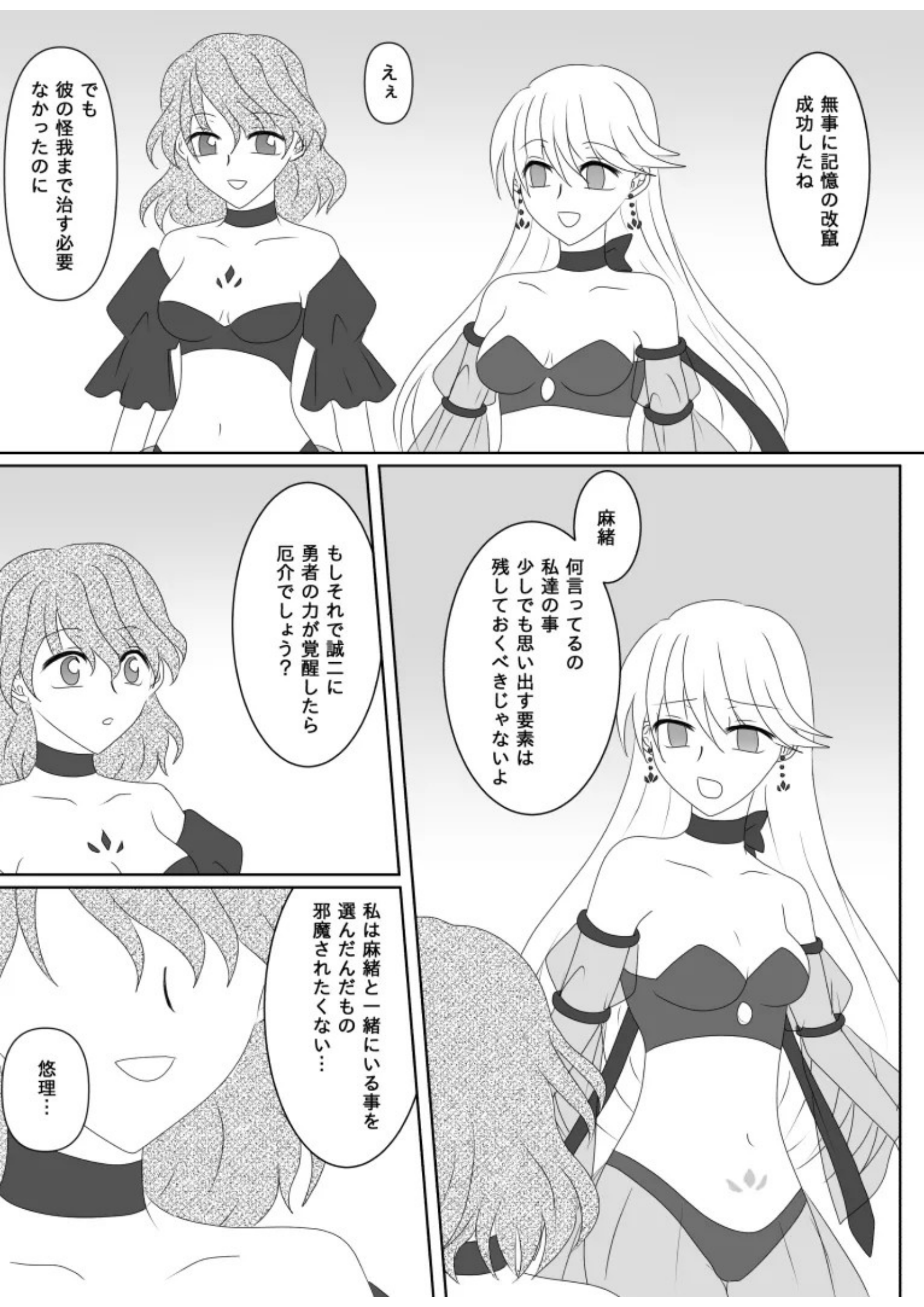
何度言っても
もう無駄よ
よく見なさいよ
この杖を…
前世で悠理が使っていた
神子の杖よ
ふふ…
今では聖なる力は
私の魔のエネルギーに
染まったけどね
もう悠理に
聖なる力はない…
もう
あんたの所に戻る事もないわ

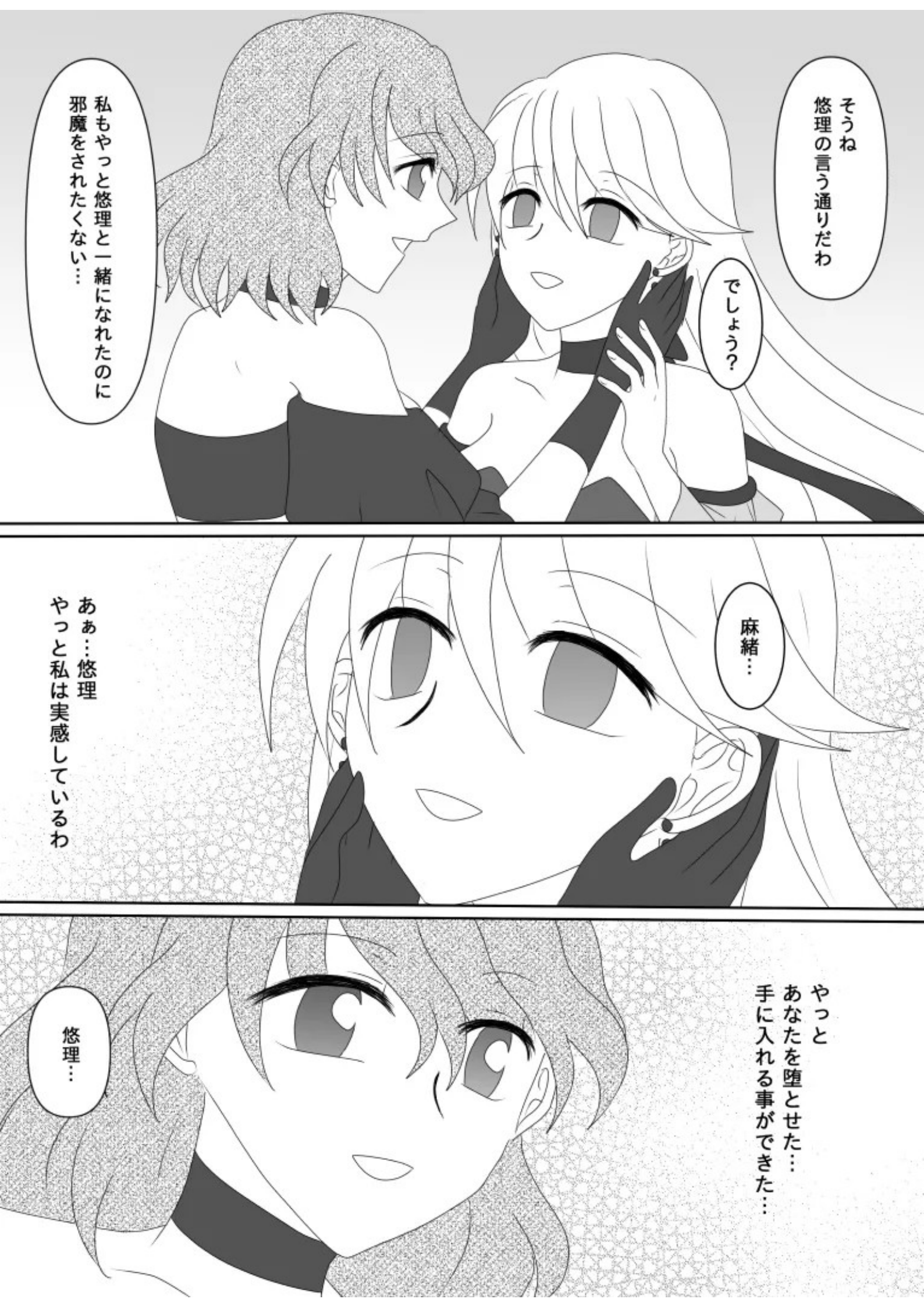

なっ…
あぁ でも安心して？
今の私には
世界を滅ぼす気はないから
は？
麻緒…
さぁ一緒に…
えぇ∨

待て!!
何を…っ!?
バイバイ
誠二…

え？

俺 何で
屋上にいるんだ？
早く部活に行かないと…!!
あれ？
どうした～？
いやぁ～
誰にニャインを送ろうとしたか
ド忘れしちゃってさぁ
えーw
大丈夫？
ダメかもw


無事に記憶の改竄成功したね
ええ
でも彼の怪我まで治す必要なかったのに
麻緒
何言ってるの私達の事少しでも思い出す要素は残しておくべきじゃないよ
もしそれで誠二に勇者の力が覚醒したら厄介でしょう？
私は麻緒と一緒にいる事を選んだんだもの邪魔されたくない…
悠理…

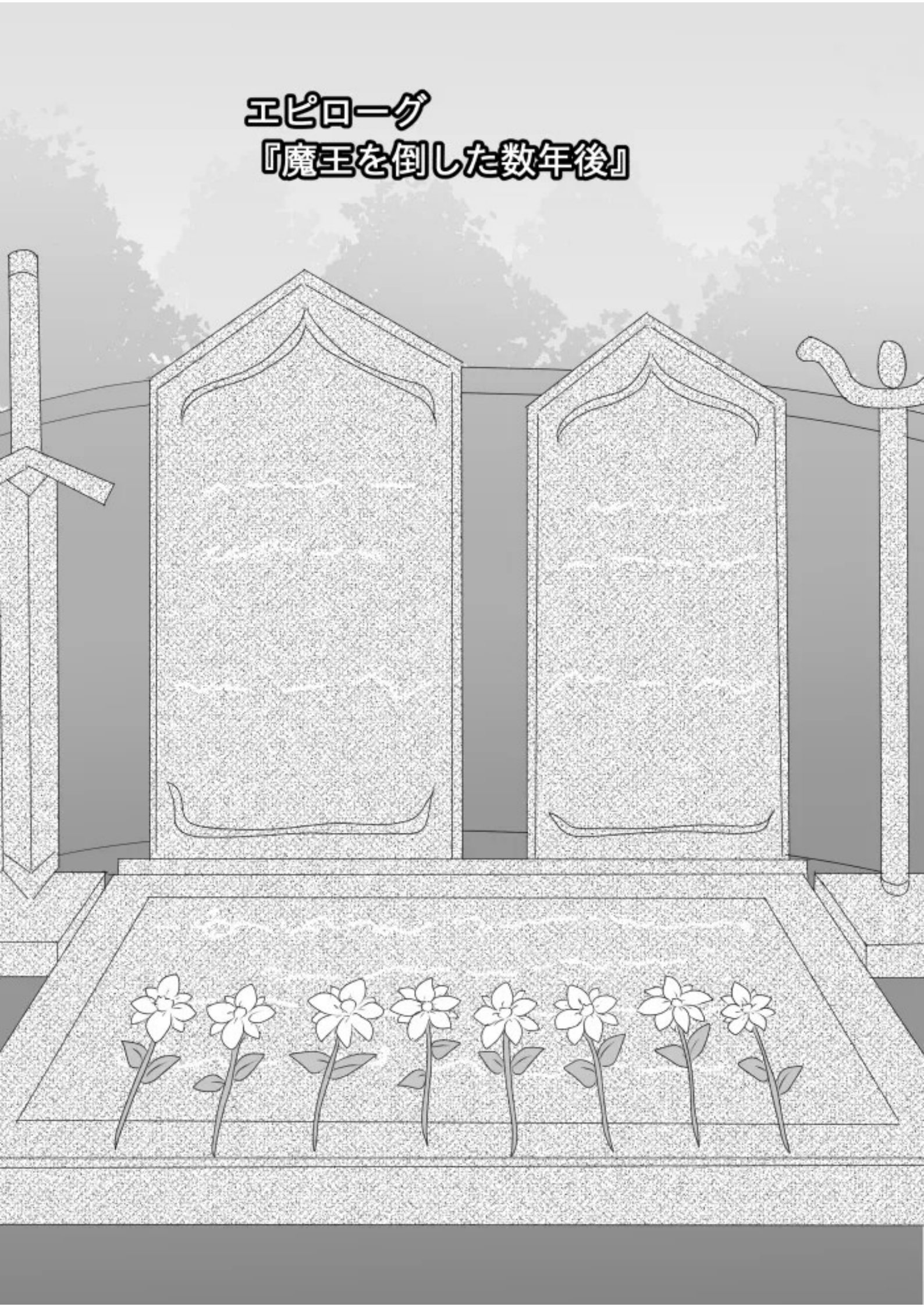

そうね
悠理の言う通りだわ
でしょう？
私もやっと悠理と一緒になれたのに
邪魔をされたくない…
麻緒…
あぁ…悠理
やっと私は実感しているわ
やっと
あなたを堕とせた…
手に入れる事ができた…
悠理…

もう誰にも渡さない…

END

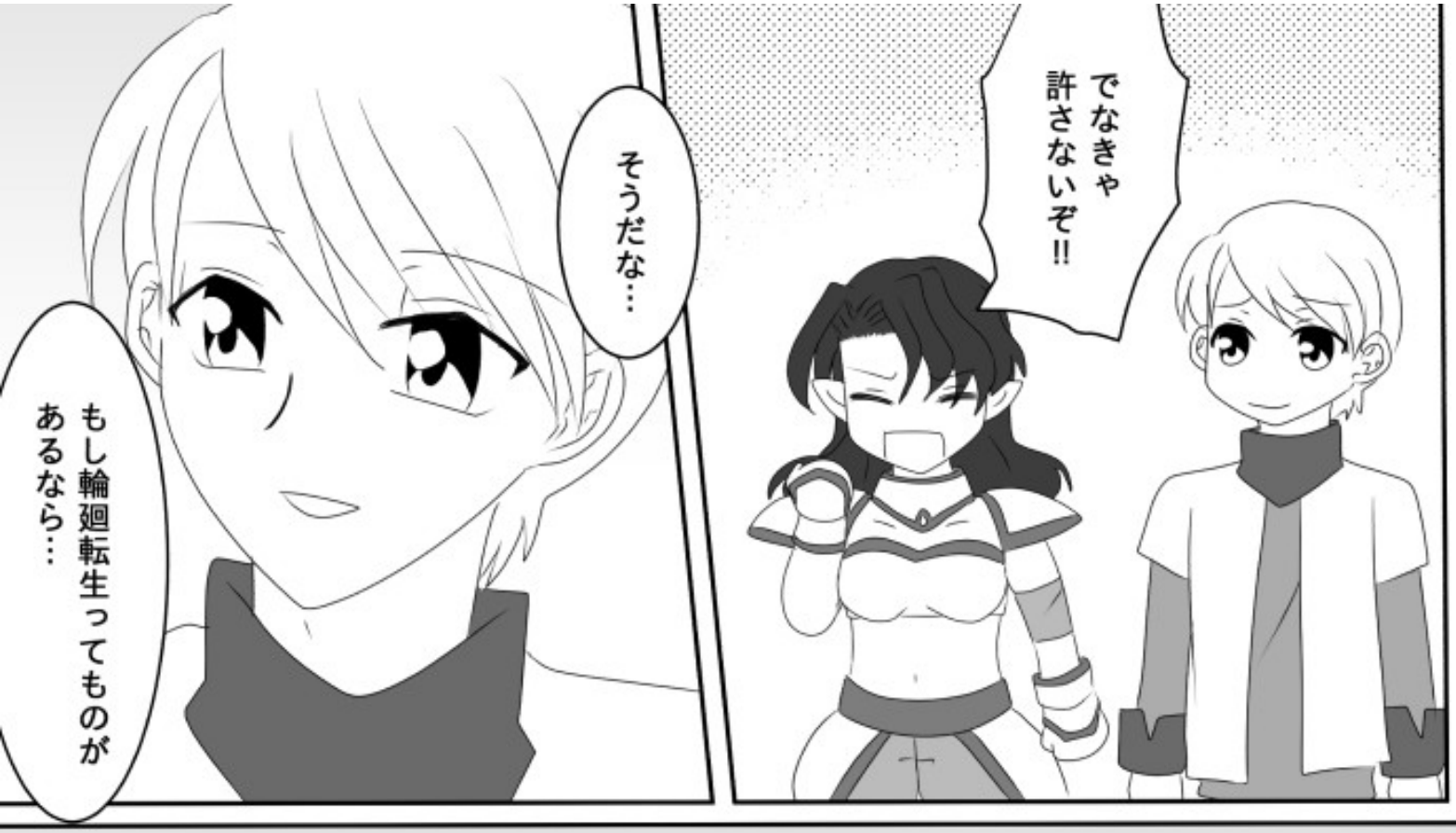
セイジ
ユーリ
今年も
墓参りに来たぞ

エピローグ
『魔王を倒した数年後』



今も世界はずっと
平和が続いているよ
人間もエルフも
お前達への
感謝を忘れていない
だが!!
今年も言わせてもらうぞ!!
私はずっと怒ってる!!
また
言うのか…
言うさ!!
ユーリ!!
何で2人で死ぬ事を
選んだんだ!!
全員で
生きて帰るって
約束しただろ…!!
走ってすぐに
2人の所に行けば
全員で脱出出来たかもしれない
怪我を負って動けず
それが出来なかった
あの時の自分が
ずっと許せないでいる…!!

それは…
俺も同じだよ…
仲間をこんな気持ちに
させるな馬鹿…
だからさ…
もし…
え？
もし…
輪廻転生ってものがあるなら…
2人が生まれ変わって
幸せになってほしい



俺も
2人が結ばれて
幸せになれる事を願うよ

END